真宗大谷派
東本願寺
Higashihonganji
Shinshu Otani-ha

「寺院活動における青少幼年教化活動の実態調査」

（九州教区青少幼年部門 2021年実施）

調 査 分 析 結 果 報 告

実施：真宗大谷派九州教区青少幼年部門
協力：真宗教化センター寺院活性化支援室（企画調整局）

調査概要

【調査目的】
九州教区寺院が、どのような青少幼年教化のサポートを期待しているか、その要望に対して青少幼年部門としてどのような事業を展開できるか、それぞれの寺院の状況を把握したうえで、青少幼年教化の展望を見出すことを目的とする。

【調査対象】　九州教区内全寺院・教会・別院　７８８ヵ寺

【調査期間】　２０２１年９月１日現在の内容で調査
（～２０２１年１２月２０日最終締切）

【有効回答数】　５０６ヵ寺

教区全体の回収率：64.2%
（有効回答506ヵ寺/未回収寺院282ヵ寺）

本調査における世代の定義

東本願寺
真宗大谷派
shinshU Otani-ha
Higashihongan-ji

乳幼児・・・0歳～5歳

子ども・・・6歳～18歳

若　者・・・19歳～35歳位

調査実施・分析の方向性の背景

真宗大谷派の青少幼年教化の現状 ①

九　州8.8%

１３．１％

⇒　子ども会（日曜学校）設置率（1111ヵ寺）

[参考]　同朋の会→31.4%　婦人会→27.4%

- 花まつりの執行　6.1%（1361ヵ寺）
- 誕生会の執行　8.8%（ 743ヵ寺）
- 青年会の設置　3.1%（ 264ヵ寺）
- ﾎﾞｰｲｽｶｳﾄ・ｶﾞｰﾙｽｶｳﾄ設置　0.8%（ 65ヵ寺）
- 成人式の執行　0.3%（ 29ヵ寺）

九　州5.0%

【2012年10月1日実施の教勢調査（有効回収8,469ヵ寺）の結果】

真宗大谷派の青少幼年教化の現状 ②

「青少幼年教化組織（子ども会・ボーイスカウト・ガールスカウト・青年会）の設置意思がない」と答えた寺院のその理由

⇒「参加してくれるような青少幼年がいない」（73.3%）

「法務や仕事が忙しい」	（31.5%）
「指導できる人がいない」	（30.3%）
「やり方がわからない」	（13.7%）
「必要だと思わない」	（ 8.0%）

（所属門徒あるいは寺院所在地域に）

子どもや若者は、

本当にいないのだろうか？

昨今の大谷派における青少幼年教化施策の方向性

東本願寺 真宗大谷派 shinshU Otani-ha Higashihongan-ji

① 一ヵ寺への青少幼年教化サポート施策

【例】「ひとりからはじめる子ども会」講習会
子ども会サポートプラン
青年特伝

② 「会の結成」だけではない、自由な発想での青少幼年教化の模索

【例】初参り式サポート
すでにある仏事の場を青少幼年教化の場に

→ 寺院活性化支援室の取り組み

施策の課題

教区における青少幼年教化サポートプランの課題

手が挙がらない！（サポート候補寺院が見つからない）

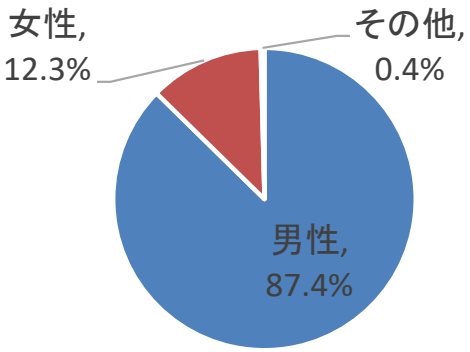
→ **「実態調査」の活用**

- 山陽教区
- 九州教区

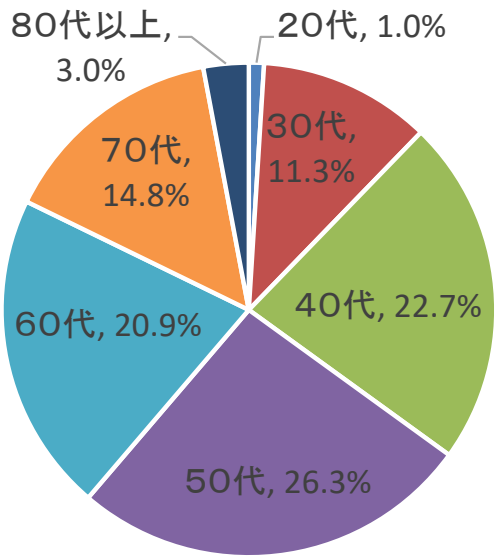
回答者属性

－回答者の属性（１）－

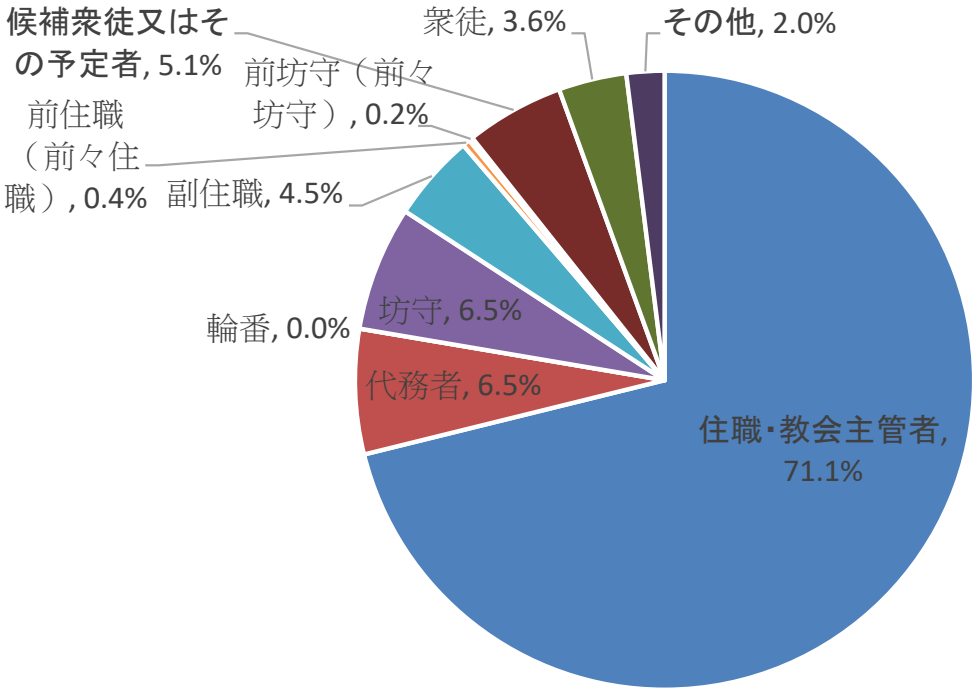
記入者の性別



記入者の世代



記入者の役職

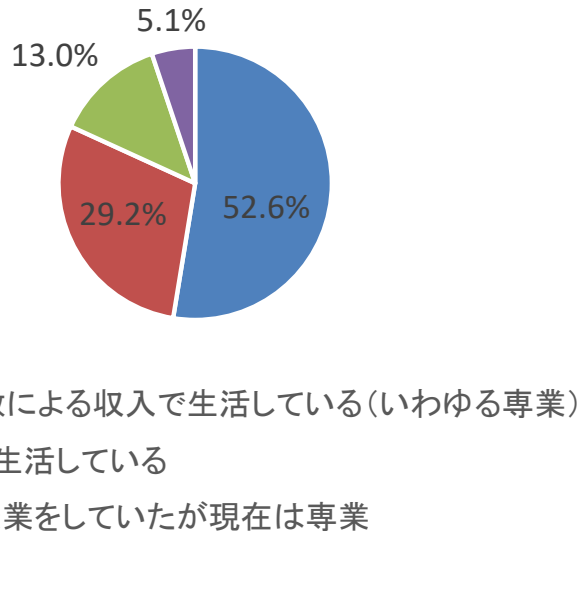


40代～70代は、
全体の約15%～25%で
回答いただいている

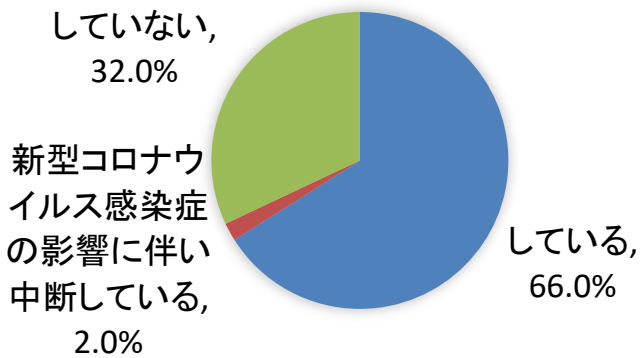
n=506

－回答者の属性（２）－

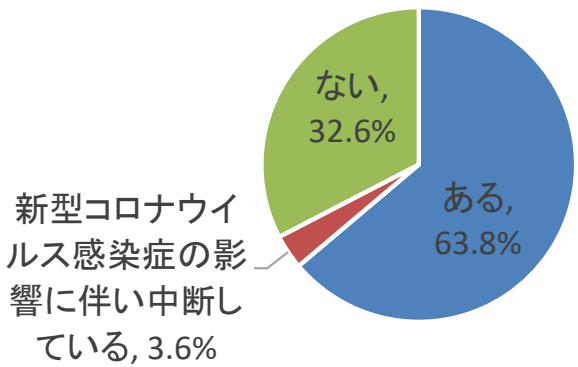
寺院の収入状況



月参りの状況



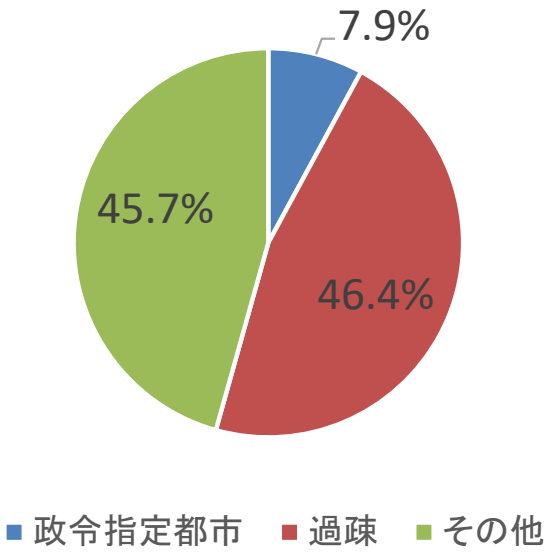
月参り以外での定期的なお参り状況



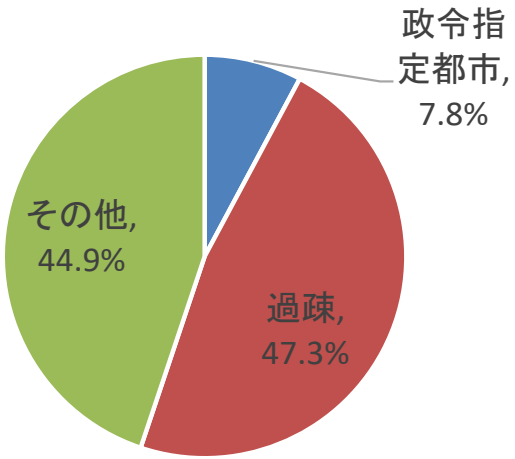
n=506

－回答者の属性（３）－

寺院所在場所の地域状況

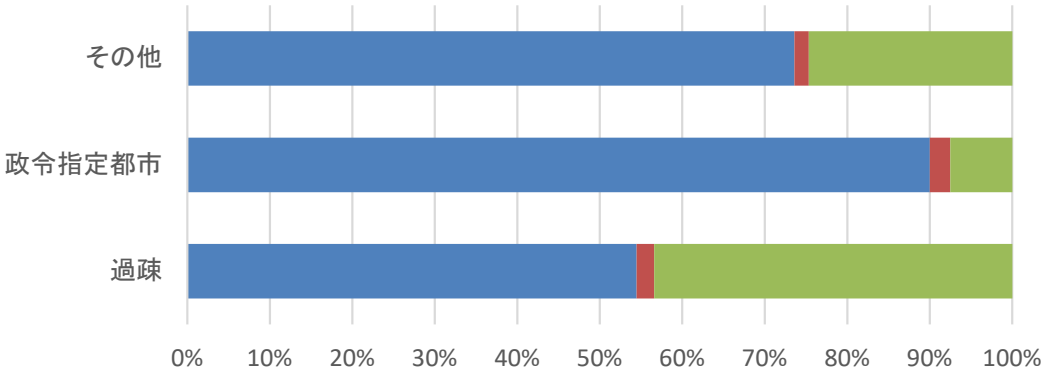


《参考》 九州教区全体の寺院の所在地の地域状況



n=818

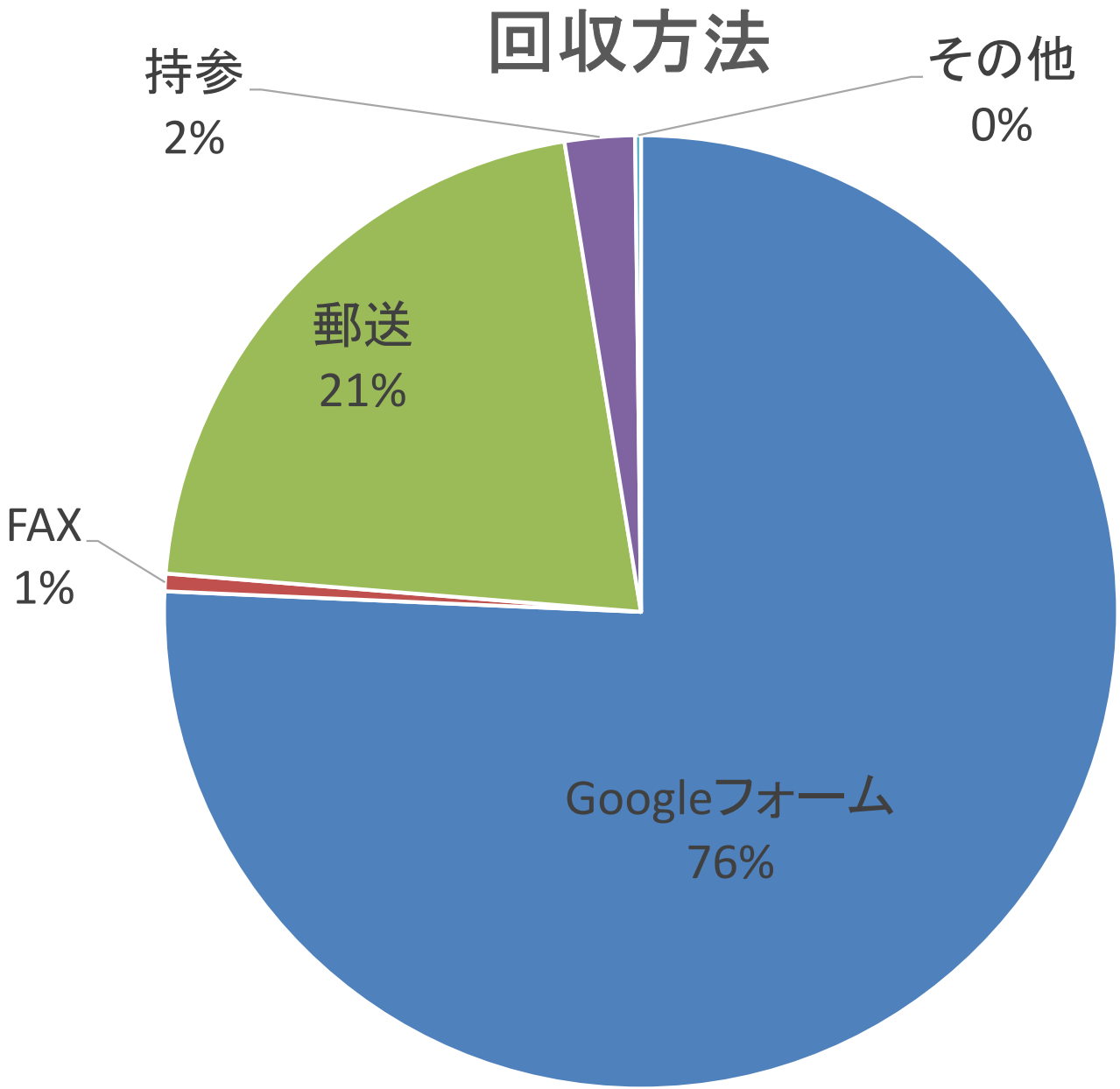
《月参りの地域別実施状況》



	過疎	政令指定都市	その他
■している	128	36	170
■新型コロナウイルス感染症の影響に伴い中断している	5	1	4
■していない	102	3	57

n=506

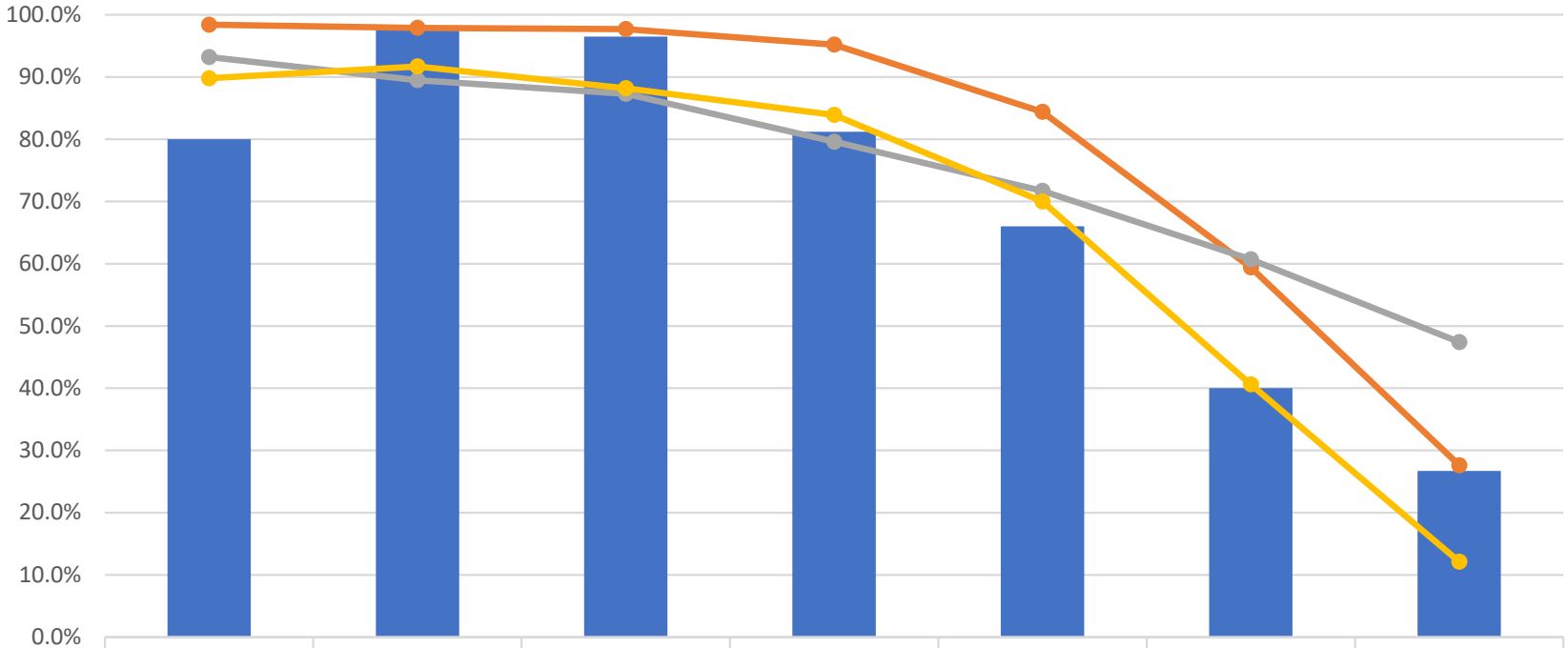
－オンライン活用の可能性（１）－



n=506

－オンライン活用の可能性（２）－

《世代別インターネット利用状況の全国平均（総務省「通信利用動向調査」2021年）と本調査Googleフォームでの回答割合の比較》



	20代	30代	40代	50代	60代	70代	80代以上
Googleフォームでの回答	80.0%	98.2%	96.5%	81.2%	66.0%	40.0%	26.7%
インターネット利用率（一般）	98.4%	97.9%	97.7%	95.2%	84.4%	59.4%	27.6%
SNS利用率（一般）	93.2%	89.5%	87.3%	79.6%	71.7%	60.7%	47.4%
スマホ利用率（一般）	89.8%	91.7%	88.2%	83.9%	70.0%	40.6%	12.1%

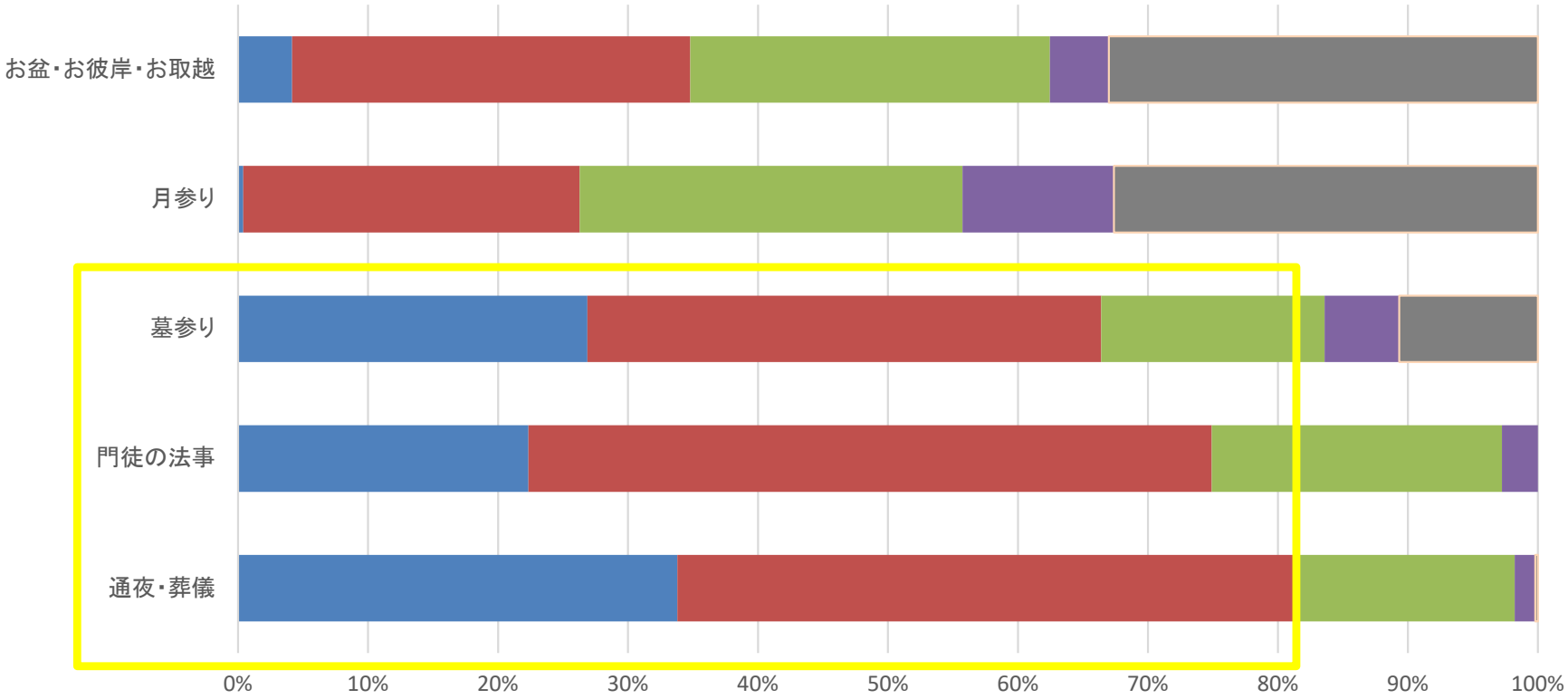
スマホ対応のものであれば、世間一般的なオンライン活用が可能？！

日常の法務における青少幼年との関わり

日常の法務における青少幼年との関わり①《乳幼児》

東本願寺 真宗大谷派 shinshU Otani-ha

《青少幼年との出あいの場面比較【乳幼児】》



	通夜・葬儀	門徒の法事	墓参り	月参り	お盆・お彼岸・お取越
よく出あう	171	113	136	2	21
たまに出あう	242	266	200	131	155
ほとんど出あわない	84	113	87	149	140
まったく出あわない	8	14	29	59	23
そもそも場面がない・わからない	1	0	54	165	167

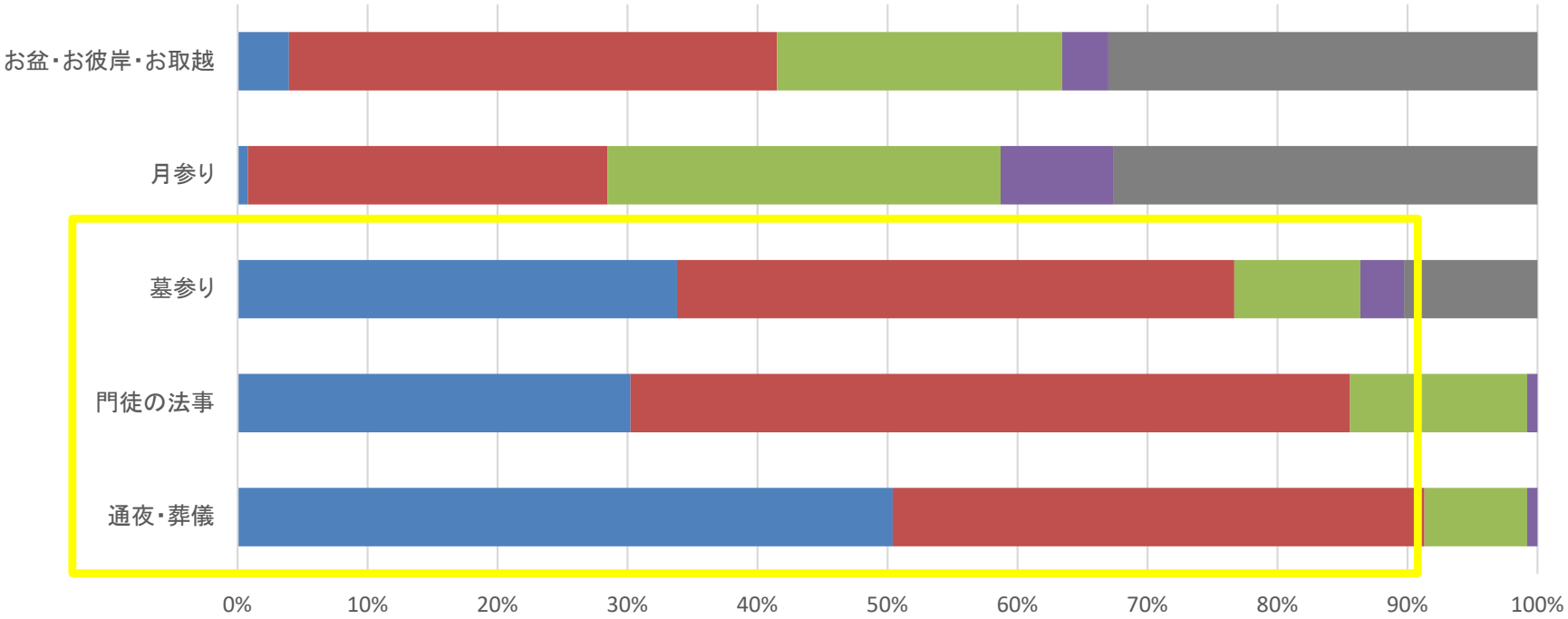
※よく出あうには、「ほぼすべての通夜・葬儀において見かける」「ほぼすべての法事において見かける」を含む
※わからないには「無回答」を含む

n=506

日常の法務における青少幼年との関わり②《子ども》

東本願寺 真宗大谷派 shinshU Otani-ha

《青少幼年との出あいの場面比較【子ども】》



	通夜・葬儀	門徒の法事	墓参り	月参り	お盆・お彼岸・お取越
よく出あう	255	153	171	4	20
たまに出あう	207	280	217	140	190
ほとんど出あわない	40	69	49	153	111
まったく出あわない	4	4	17	44	18
そもそも場面がない・わからない	0	0	52	165	167

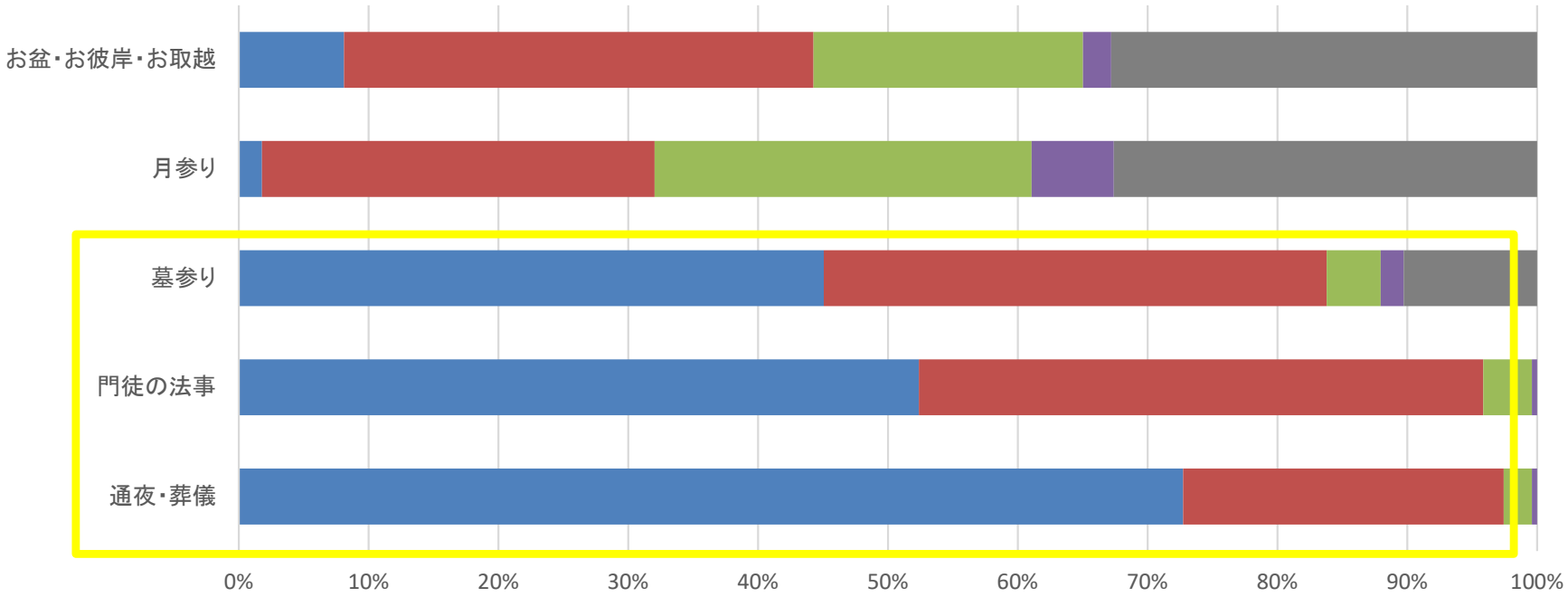
※よく出あうには、「ほぼすべての通夜・葬儀において見かける」「ほぼすべての法事において見かける」を含む
※わからないには「無回答」を含む

n=506

日常の法務における青少幼年との関わり③《若者》

東本願寺 真宗大谷派 shinshU Otani-ha

《青少幼年との出あいの場面比較【若者】》



	通夜・葬儀	門徒の法事	墓参り	月参り	お盆・お彼岸・お取越
よく出あう	368	265	228	9	41
たまに出あう	125	220	196	153	183
ほとんど出あわない	11	19	21	147	105
まったく出あわない	2	2	9	32	11
そもそも場面がない・わからない	0	0	52	165	166

※よく出あうには、「ほぼすべての通夜・葬儀において見かける」「ほぼすべての法事において見かける」を含む
※わからないには「無回答」を含む

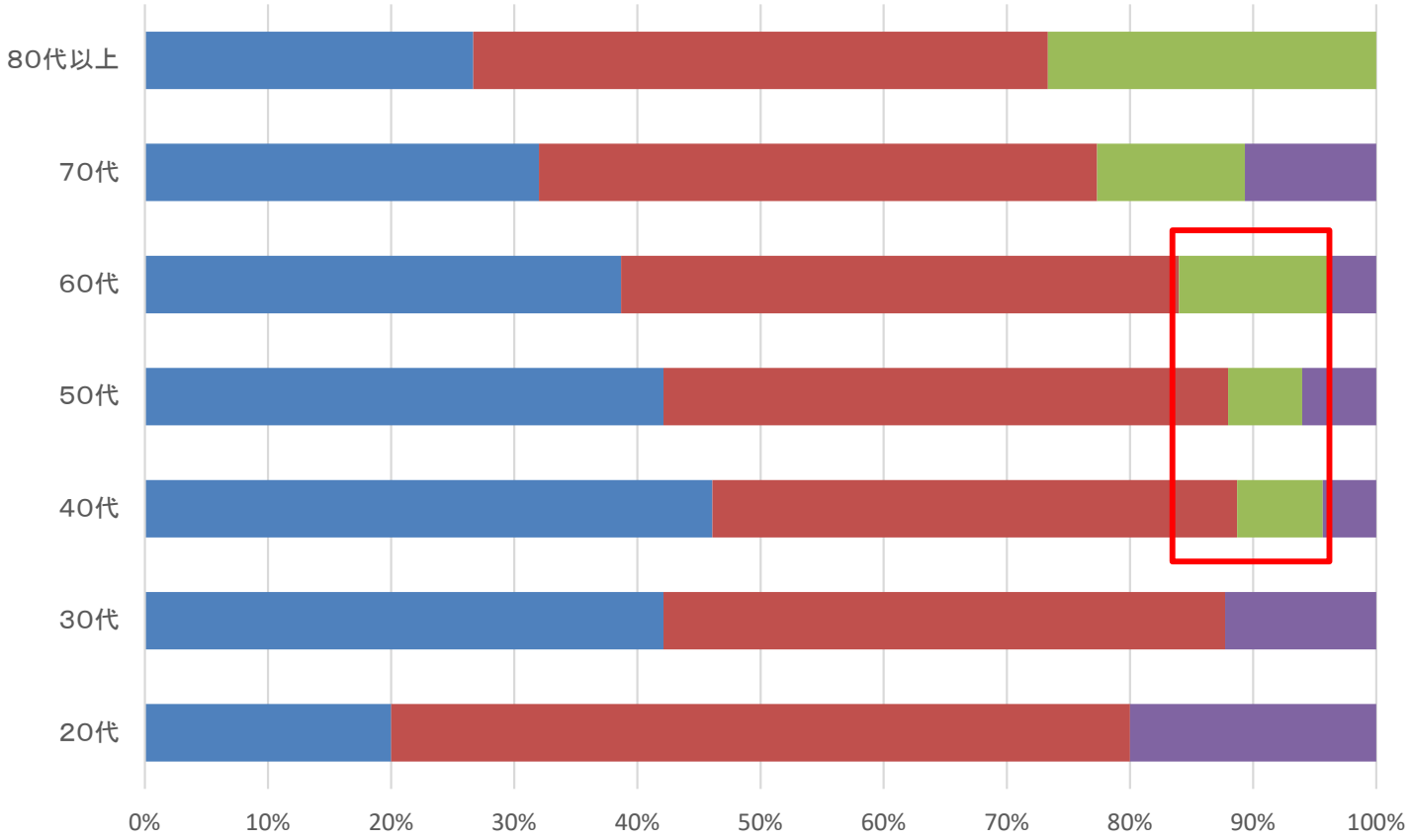
通夜・葬儀、法事、墓参りにおける若者との出あいのチャンスは大きい！

n=506

日常の法務における青少幼年との関わり⑥　－法話の場面（１）－

東本願寺 真宗大谷派 shinshU Otani-ha

【設問4】通夜法話や還骨勤行・初七日の法話で、青少幼年を意識してお話しているか？



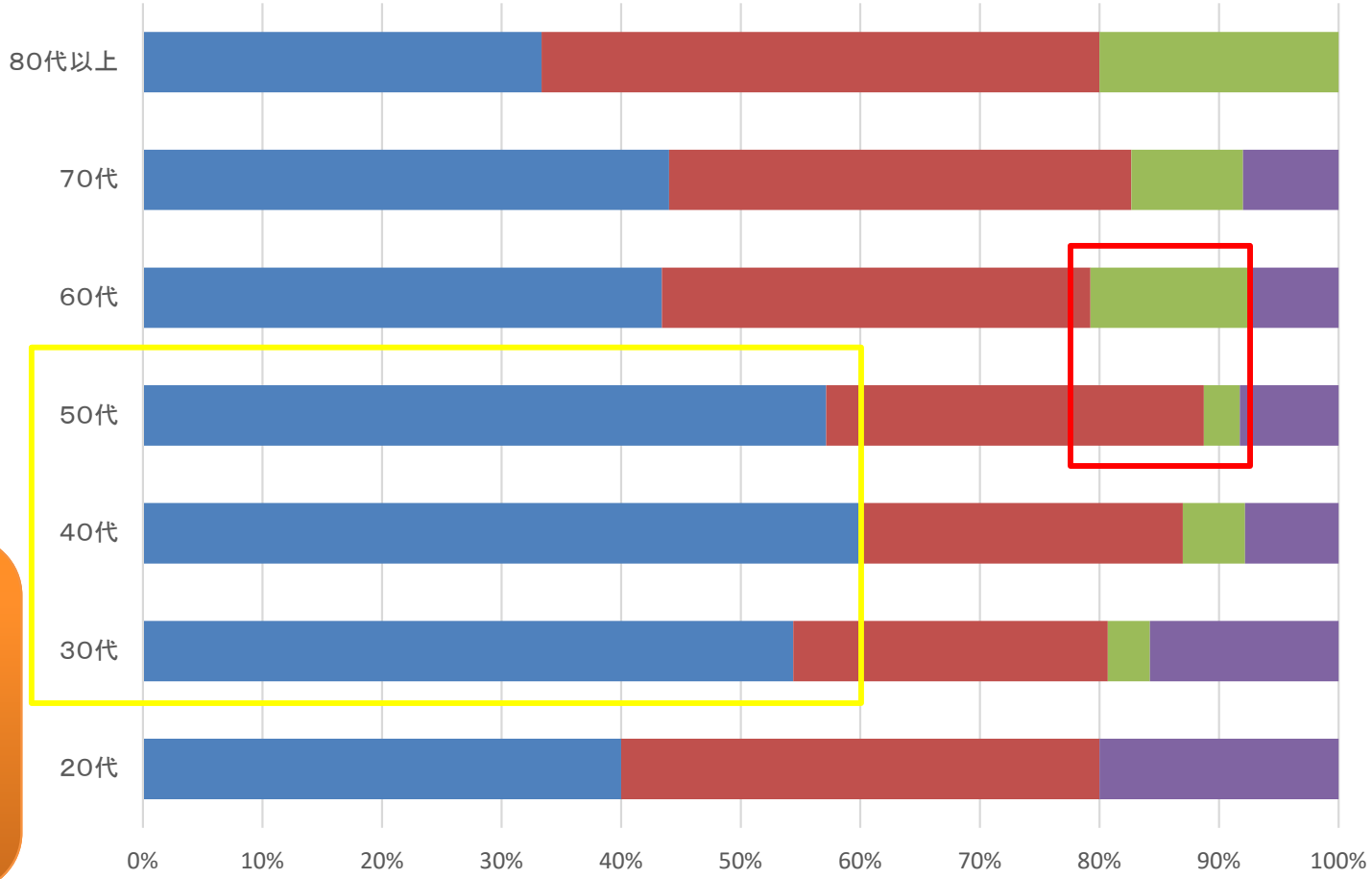
	20代	30代	40代	50代	60代	70代	80代以上
はい	20.0%	42.1%	46.1%	42.1%	38.7%	32.0%	26.7%
いいえ	60.0%	45.6%	42.6%	45.9%	45.3%	45.3%	46.7%
青少幼年（乳幼児・子ども・若者）は見かけない	0.0%	0.0%	7.0%	6.0%	12.3%	12.0%	26.7%
その他	20.0%	12.3%	4.3%	6.0%	3.8%	10.7%	0.0%

n=506

日常の法務における青少幼年との関わり⑦　－法話の場面（２）－

東本願寺 真宗大谷派 shinshU Otani-ha

【設問8】法事での法話で、青少幼年を意識してお話しているか？



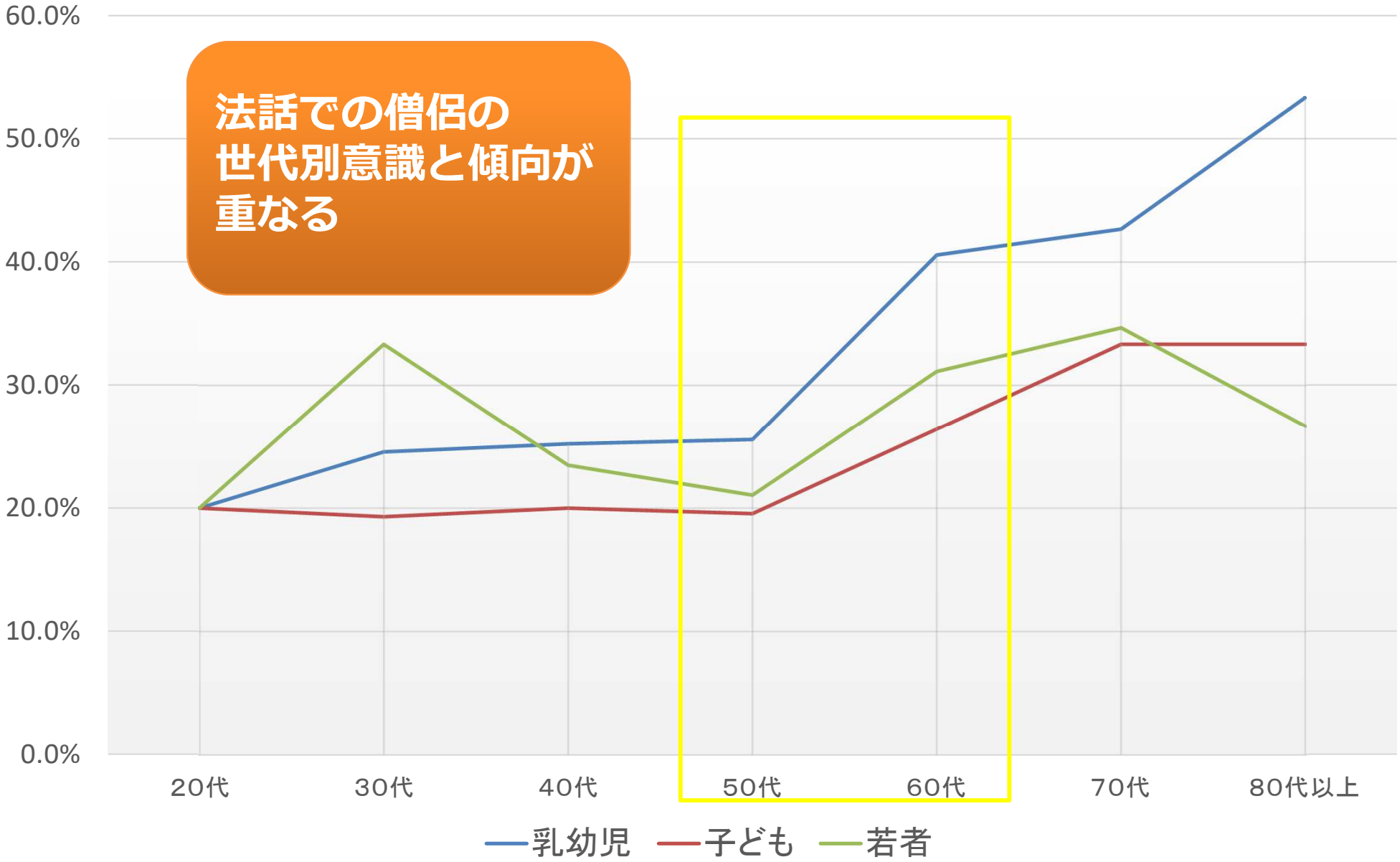
通夜・葬儀や還骨勤行・初七日と比べると、法事の法話での青少幼年への意識が高い！

	20代	30代	40代	50代	60代	70代	80代以上
はい	40.0%	54.4%	60.0%	57.1%	43.4%	44.0%	33.3%
いいえ	40.0%	26.3%	27.0%	31.6%	35.8%	38.7%	46.7%
青少幼年（乳幼児・子ども・若者）は見かけない	0.0%	3.5%	5.2%	3.0%	13.2%	9.3%	20.0%
その他	20.0%	15.8%	7.8%	8.3%	7.5%	8.0%	0.0%

n=506

日常の法務における青少幼年との関わり⑧ －法務の中でのひと工夫（１）－

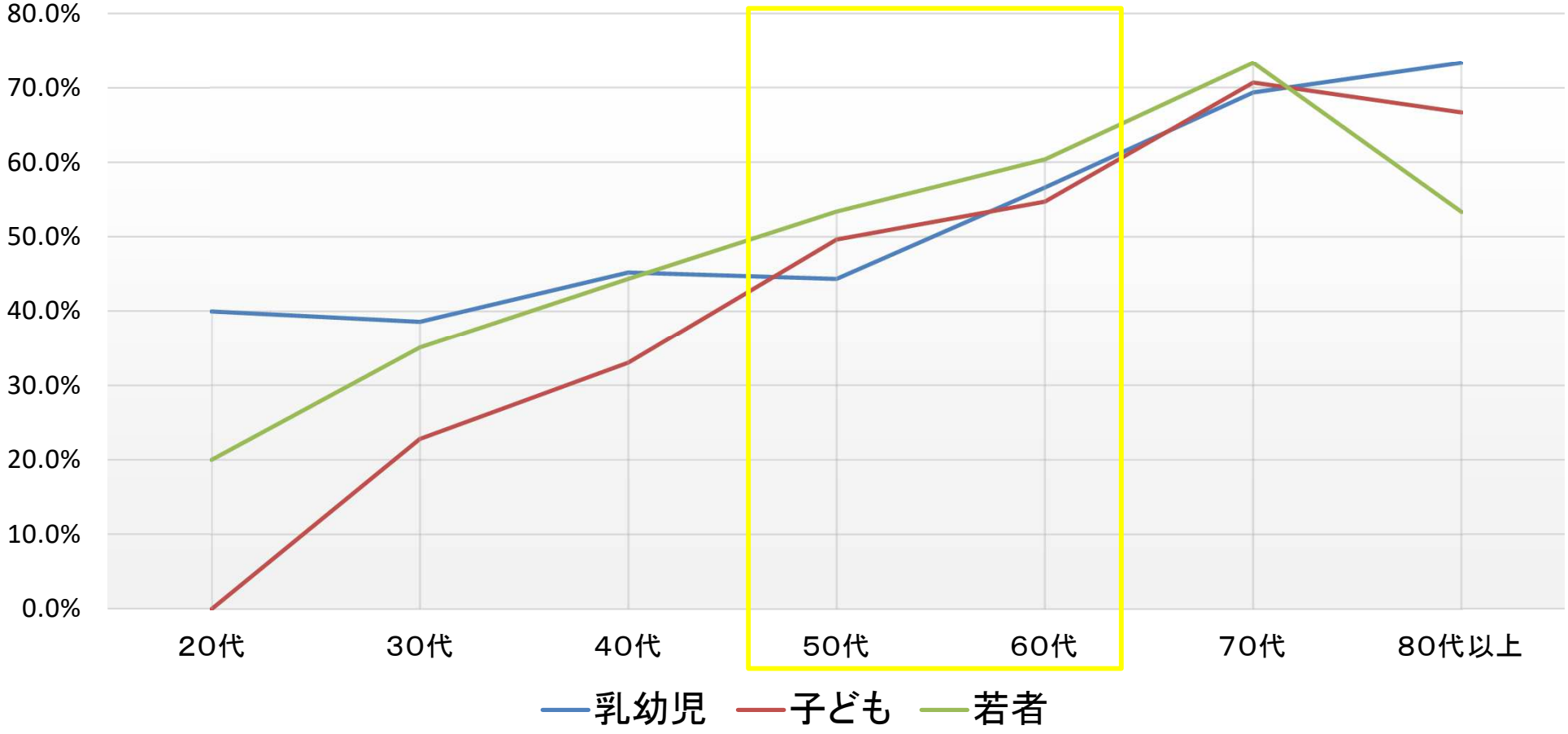
【設問14･15･16】「特に何もしない」の世代別割合の比較



法話での僧侶の
世代別意識と傾向が
重なる

《参考比較》

【設問27・28・29】
「青少幼年を対象とした教化事業は考えていない」回答の世代別比較



ここでも、法話での僧侶の世代別意識と傾向が重なる

日常の法務における青少幼年との関わり⑨ －法務の中でのひと工夫（２）－

東本願寺 真宗大谷派 shinshU Otani-ha

《法務の中で、青少幼年を前にした時の困りごと》より

・子どもの関心事を知らず接点が見出せない。

・通じる言葉に苦慮する。

・乳幼児などは自分に子どもがいないので接し方が難しい。

・たまにしか出あわないので、若い世代にどう語りかければ良いか悩みます。

・普段若者と接する機会がないので、若者の意識、考えがわからず、話の内容に困っている。

僧侶と青少幼年との「接点」の課題

～ 世代間ギャップ？ ～

・保護者が子どもを法事が終わるまで別部屋で待つよう指示することがある。

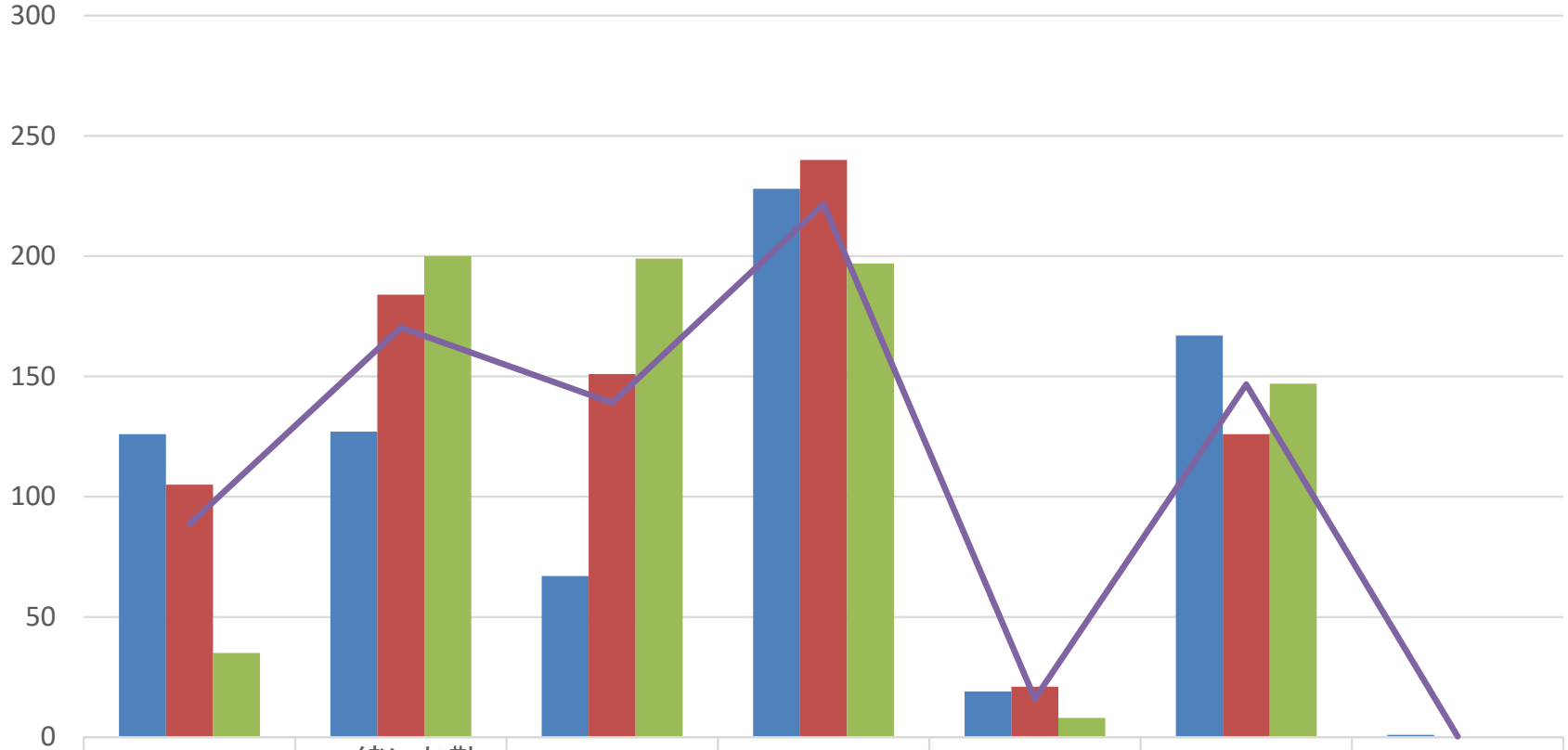
・子どもや若者とコミュニケーションをとるタイミングが難しい。

僧侶から青少幼年に声をかける必要性

日常の法務における青少幼年との関わり⑩　－法務の中でのひと工夫（３）－

東本願寺 真宗大谷派 shinshU Otani-ha Higashihongan-ji

《法務の中で青少幼年を見かけたときに心がけていること》

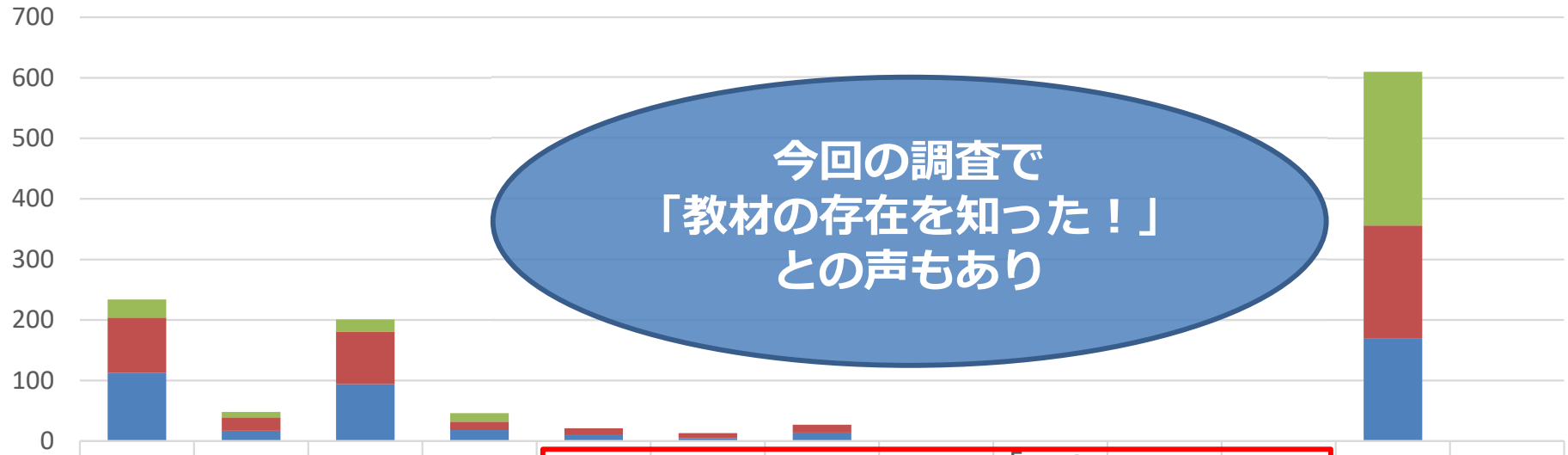


	記念品などを渡す	一緒にお勤めできるような工夫をする	世代を意識した法話	積極的に話しかける	絵本や紙芝居の読み聞かせをする	特に何もしない	その他・無回答
乳幼児	126	127	67	228	19	167	1
子ども	105	184	151	240	21	126	0
若者	35	200	199	197	8	147	0
平均	88.7	170.3	139.0	221.7	16.0	146.7	0.3

n=506（複数回答あり）

日常の法務における青少幼年との関わり⑪ －法務の中でのひと工夫（４）

《法務の中で渡している記念品の内容》【複数回答可】



今回の調査で
「教材の存在を知った！」
との声もあり

	念珠や腕輪念珠	文房具	お菓子・食料品など	書籍	「ほとけの子」風船	「ほとけの子」リーフレット	キャラクターシール	「若者向け法話集」	「いのちの教育はお寺から」（葬儀用リーフレット）	「こころの救急カード」	「カルト問題の啓発」リーフレット	特に記念品は渡していない	その他
若者	30	9	20	14	0	0	0	0	0	0	0	254	
子ども	91	22	87	14	10	8	13	0	1	1	1	186	
乳幼児	113	17	94	18	11	5	14	0	0	0	0	170	

⇒ 教材と活用法が十分知られていない可能性あり！

日常の法務における青少幼年との関わり⑫ －求められる教材や記念品－

東本願寺 真宗大谷派 shinshU Otani-ha Higashihongan-ji

・アンケートを通して、法務の際に記念品を渡すというアイデアを教えていただきました。
・月参り等でも気軽に渡せて興味を持ってもらえるようなリーフレット
・記念品について、どのようなものがあるのか知らないので、時々広報に載せて欲しい。（カタログ・パンフレット等）
「キャラクターのシール」等既存の教材の要望もあり ☞広報の充実を！
・青年向けの記念品がない。
・子どもへ向けた冊子の充実や年数回の「子ども同朋新聞」の発行。
・絵本「しんらんさまみ～つけたっ！」は夢中になってやっている。
・4～6歳の子どもにわかりやすく仏教を伝える言葉、題材。
・乳幼児の親世代に向けて配るグッズ。
・子ども向けアニメ法話や絵本をもう少し面白く充実させて欲しい。
・報恩講や花まつりで子どもたちが発表できる紙芝居が欲しい。
・お釈迦様や親鸞聖人についてのよいビデオがない。

・実際に活動している寺院の事例
・色んなアイデアを教えて欲しい
・小さなお寺でもやっていける子ども会の見本
・たくさんの失敗談が聞きたい。
・SNSによる寺同士の情報の連携
・ネットやSNS等を活用した若者教化のノウハウ
・「ひとりからはじめる子ども会」のオンライン開催

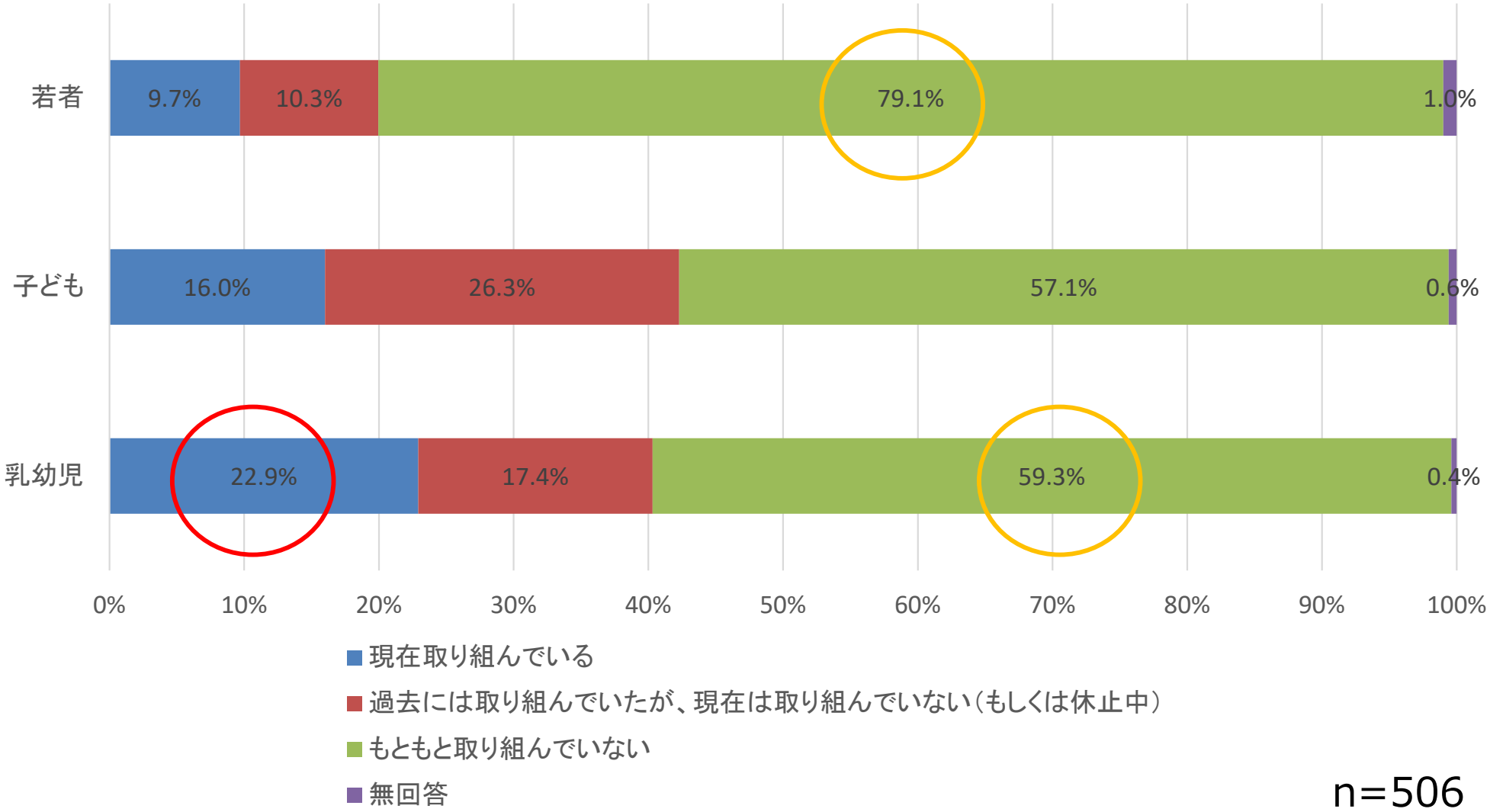
すでにある「教材」等のPR

無理なくできる事例の情報共有

青少幼年教化事業の取り組み状況

青少幼年教化事業の取り組み状況① －概要－

《世代別青少幼年教化事業の実施状況》

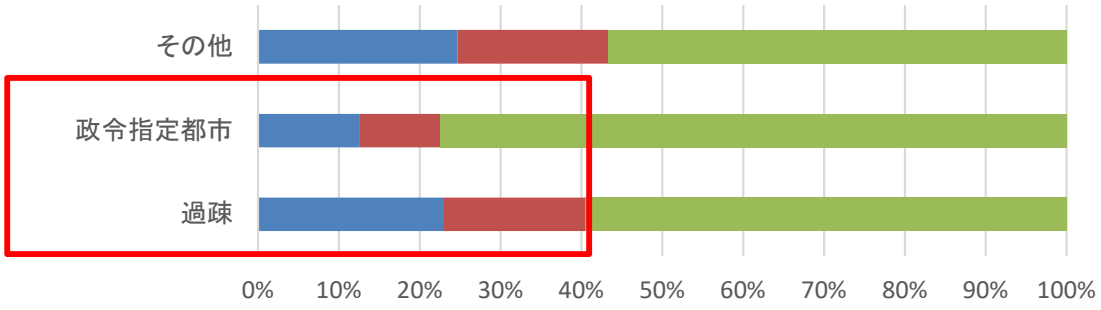


n=506

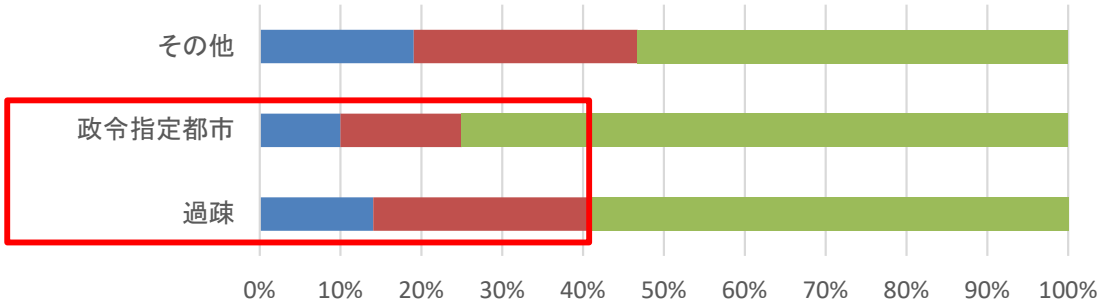
世代別にみてみると「乳幼児」対象の教化事業に取り組んでいる%が高い！
しかし、もともと取り組んでいない%も高く、伸びしろはある！！

青少幼年教化事業の取り組み状況② －地域状況別比較－

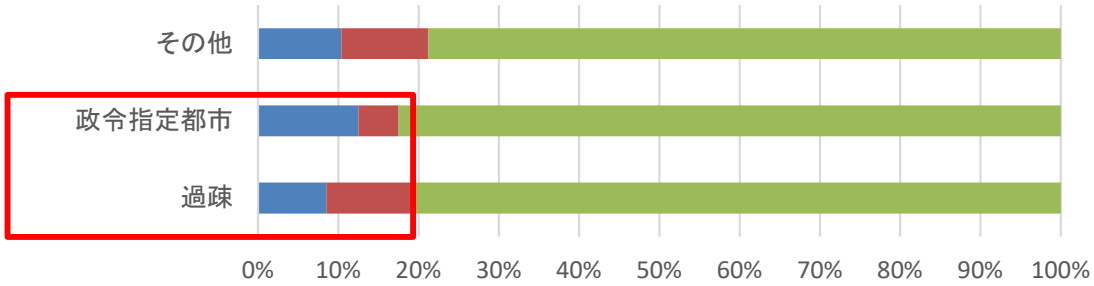
《乳幼児を対象とした取り組み比較》



《子どもを対象とした取り組み比較》



《若者を対象とした取り組み比較》



■現在取り組んでいる
■過去には取り組んでいたが、現在は取り組んでいない（もしくは休止中）
■もともと取り組んでいない

過疎地の幼年教化・児童教化に取り組んでいる割合は都市部より高い
（取り組めなくなった寺院も多いが…）

若者教化では、都市部の取り組みの割合が増える傾向

青少幼年教化事業の取り組み状況③ －世代別の取り組み内容－

東本願寺 真宗大谷派 shinshU Otani-ha Higashihongan-ji

《世代別の青少幼年教化事業の取り組み内容上位１０》

順位	乳幼児	子ども	若者
1	①花まつり	①子ども会	①除夜の鐘への若者の参加奨励
2	②初参り式	②花まつり	②青年会
3	③幼稚園や保育園、認定子ども園等の運営	③除夜の鐘への子どもの参加奨励	③門徒の仏前結婚式
4	④子ども報恩講	④子ども報恩講	④報恩講への若者のお参り奨励 ④若者を意識した掲示伝道
5	⑤除夜の鐘への乳幼児の参加奨励	⑤報恩講への子どものお参り奨励	
6	⑥子ども会	⑥寺院・境内を会場としたラジオ体操	⑥花まつり
7	⑦報恩講への乳幼児のお参り奨励	⑦寺院を会場とした学童保育	⑦若者を意識したインターネットを活用した情報発信
8	⑧お勤めの練習会 ⑧寺院・境内を会場としたラジオ体操	⑧お勤めの練習会 ⑧地域の仏教会主催の行事（花まつりなど）への参加 ⑧寺院を会場とした子どもを対象とした塾や習い事 ⑧子どもを意識した掲示伝道	⑧お勤めの練習会 ⑧成人式
9			
10	⑩親鸞聖人誕生会		⑩寺報における若者を意識した文書伝道

青少幼年教化事業の取り組み状況④－取り組みの中での困りごと（1）－

東本願寺 真宗大谷派 shinshU Otani-ha Higashihongan-ji

【設問18-③】乳幼児対象の取り組みを行う中で困っていること（深刻なもの3つ）

	1位	2位	3位	順位	順位を表す数の和に対する%
⑥参加者の減少	30	14	8	1	14.5%
⑰新型コロナウイルス感染症の感染対策	19	14	17	2	11.7%
④法務や他の仕事が忙しい	14	7	3	3	6.8%
⑪参加してくれるような乳幼児がいない	11	9	8	3	6.8%
②内容のマンネリ化	9	9	6	5	5.9%
⑦参加者の日程調整が難しい（習いごとやクラブ活動などで参加対象者が忙しい）	6	11	5	6	5.2%
①担い手（指導者）がいない（足りない）	6	2	5	7	3.1%
⑨参加者の保護者・家族の理解が得にくい	2	6	5	8	2.6%
⑫手伝ってくれる人手（スタッフ）が足りない	2	6	3	9	2.4%
③活用できる教材や記念品が不足している	0	3	4	10	1.2%
⑤家族（寺族）の協力が得にくい	2	2	0	10	1.2%

青少幼年教化事業の取り組み状況⑤－取り組みの中での困りごと（2）－

東本願寺 真宗大谷派 shinshU Otani-ha Higashihongan-ji

【設問19-③】子ども対象の取り組みを行う中で困っていること（深刻なもの3つ）

	1位	2位	3位	順位	順位を表す数の和に対する%
⑥参加者の減少	16	10	7	1	16.6%
⑰新型コロナウイルス感染症の感染対策	13	9	11	2	15.1%
⑦参加者の日程調整が難しい（習いごとやクラブ活動などで参加対象者が忙しい）	9	14	5	3	13.3%
④法務や他の仕事が忙しい	13	2	4	4	10.4%
①担い手（指導者）がいない（足りない）	5	8	1	5	9.3%
②内容のマンネリ化	3	5	11	6	6.7%
⑪参加してくれるような子どもがいない	5	5	4	7	6.4%
⑫手伝ってくれる人手（スタッフ）が足りない	3	5	5	8	5.3%
③活用できる教材や記念品が不足している	2	3	2	9	3.1%
⑬予算がない	2	3	1	10	2.9%

青少幼年教化事業の取り組み状況⑥－取り組みの中での困りごと（3）－

東本願寺 真宗大谷派 shinshU Otani-ha

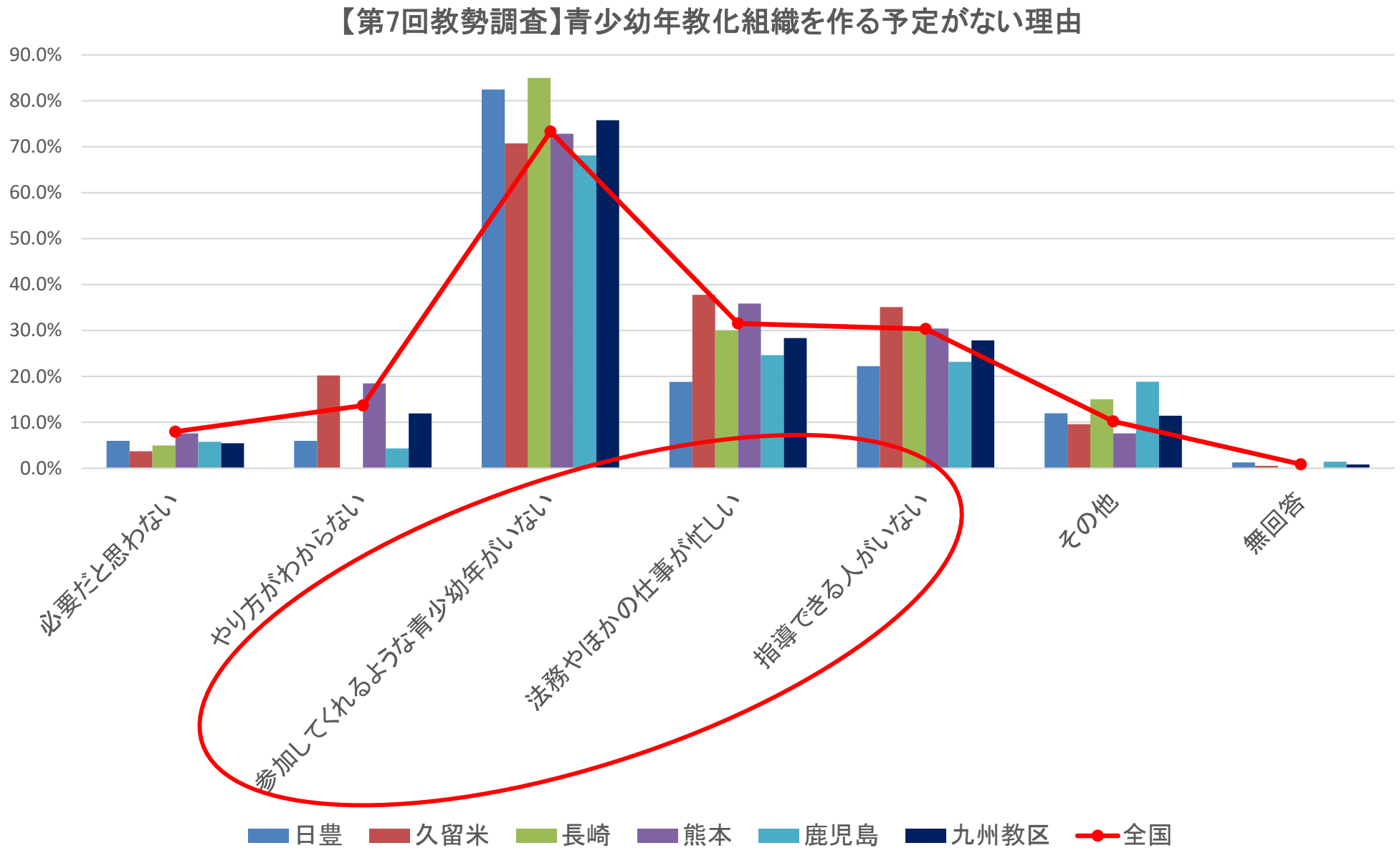
【設問20-③】若者対象の取り組みを行う中で困っていること（深刻なもの3つ）

	1位	2位	3位	順位	順位を表す数の和に対する%
⑦参加者の日程調整が難しい（学業や仕事などで参加対象者が忙しい）	7	9	3	1	17.4%
⑰新型コロナウイルス感染症の感染対策	10	3	5	2	17.0%
④法務や他の仕事が忙しい	6	6	4	3	14.1%
⑥参加者の減少	5	4	5	4	11.6%
⑪参加してくれるような若者がいない	2	4	4	5	7.5%
⑬予算がない	1	3	1	6	4.1%
②内容のマンネリ化	0	3	2	7	3.3%
①担い手（指導者）がいない（足りない）	1	0	3	8	2.5%
⑤家族（寺族）の協力が得にくい	2	0	0	8	2.5%
⑫手伝ってくれる人手（スタッフ）が足りない	0	1	3	10	2.1%

現在取り組んでいる青少幼年教化の課題も

外的要因が多い

青少幼年教化事業の取り組み状況⑦ －教勢調査でふりかえる取り組めない理由－



青少幼年教化事業の取り組み状況⑧ －取り組めない理由（１）－

東本願寺 真宗大谷派 shinshU Otani-ha Higashihongan-ji

《世代別の青少幼年教化事業に取り組めない理由ベスト１０》

順位	乳幼児	子ども	若者
1	参加してくれるような青少幼年がいない	参加してくれるような青少幼年がいない	参加してくれるような青少幼年がいない
2	法務や他の仕事が忙しい	法務や他の仕事が忙しい	法務や他の仕事が忙しい
3	参加者の減少	参加者の減少	参加者の日程調整が難しい
4	担い手（指導者）がいない（足りない）	担い手（指導者）がいない（足りない）	参加者の減少
5	新型コロナウイルス感染症の影響	参加者の日程調整が難しい	担い手（指導者）がいない（足りない）
6	やり方がわからない	新型コロナウイルス感染症の影響	やり方がわからない
7	参加者の日程調整が難しい	やり方がわからない	新型コロナウイルス感染症の影響
8	手伝ってくれる人手（スタッフ）が足りない	手伝ってくれる人手（スタッフ）が足りない	手伝ってくれる人手（スタッフ）が足りない
9	近年の状況から活動は有効ではないと思う	参加者の保護者・家族の理解が得にくい	近年の状況から活動は有効ではないと思う
10	参加者の保護者・家族の理解が得にくい	家族（寺族）の協力が得にくい	他の世代の行事（教化事業）で目一杯

「取り組めない理由」の上位の状況にどうアプローチするか？

・「参加してくれる青少幼年がいない」のであれば、

⇒　少ない人数での青少幼年教化の可能性を伝える

・「法務が忙しい」のであれば、

⇒法務そのものが青少幼年教化の場となるような

“ひと工夫”の可能性を伝える

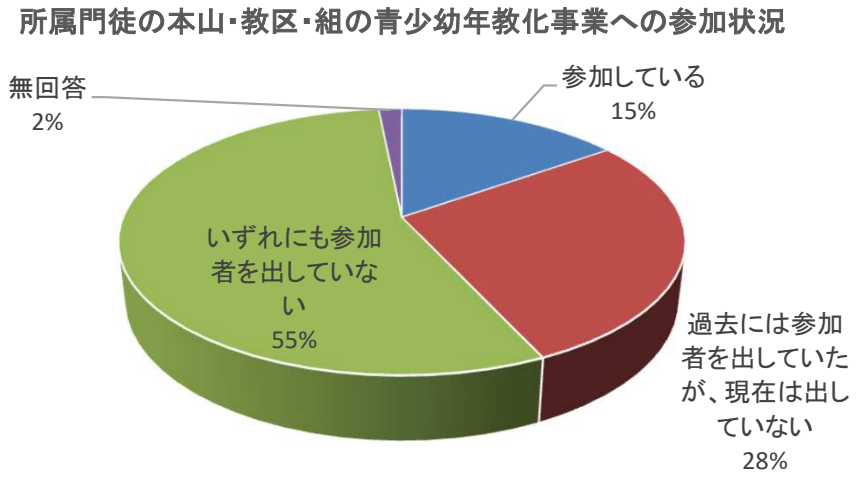
・「担い手がいない」のであれば、

⇒協力できる体制づくりや

「これなら私でもできそう！」と感じてもらえる事例を提示する

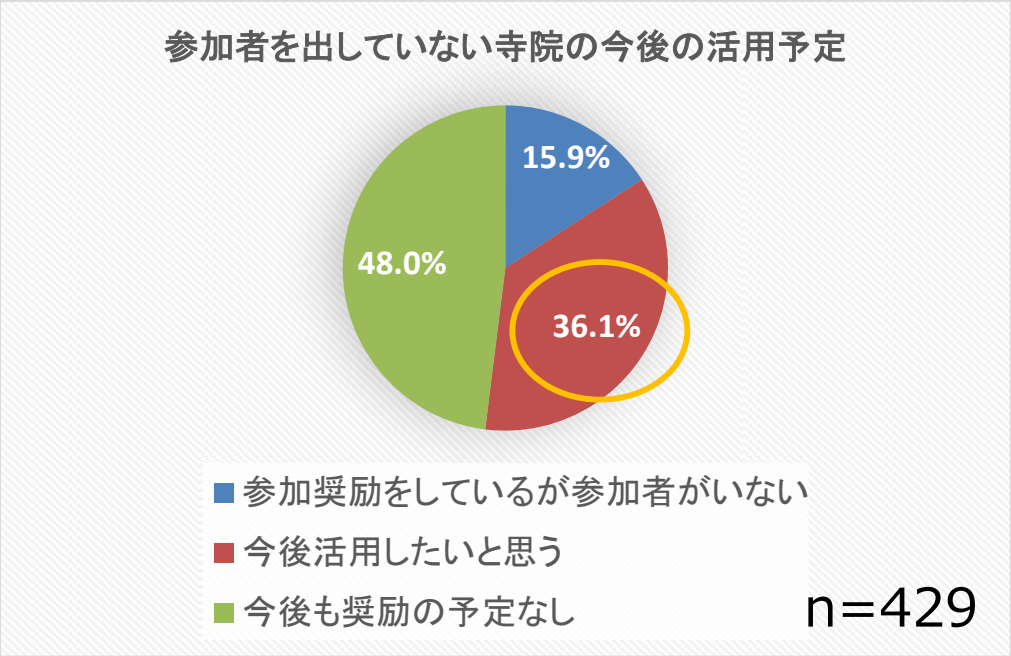
本山・教区・組の
青少幼年教化事業への参加状況

本山・教区・組の青少幼年教化事業への参加状況

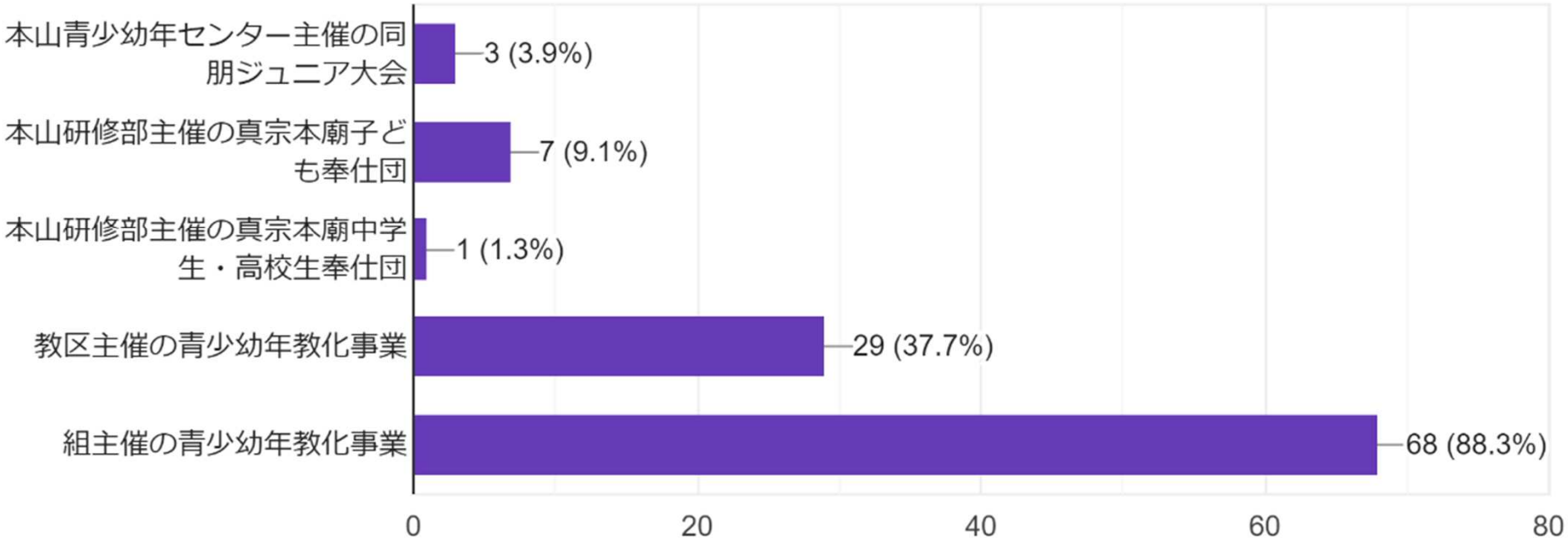


77 件の回答

n=506



n=429

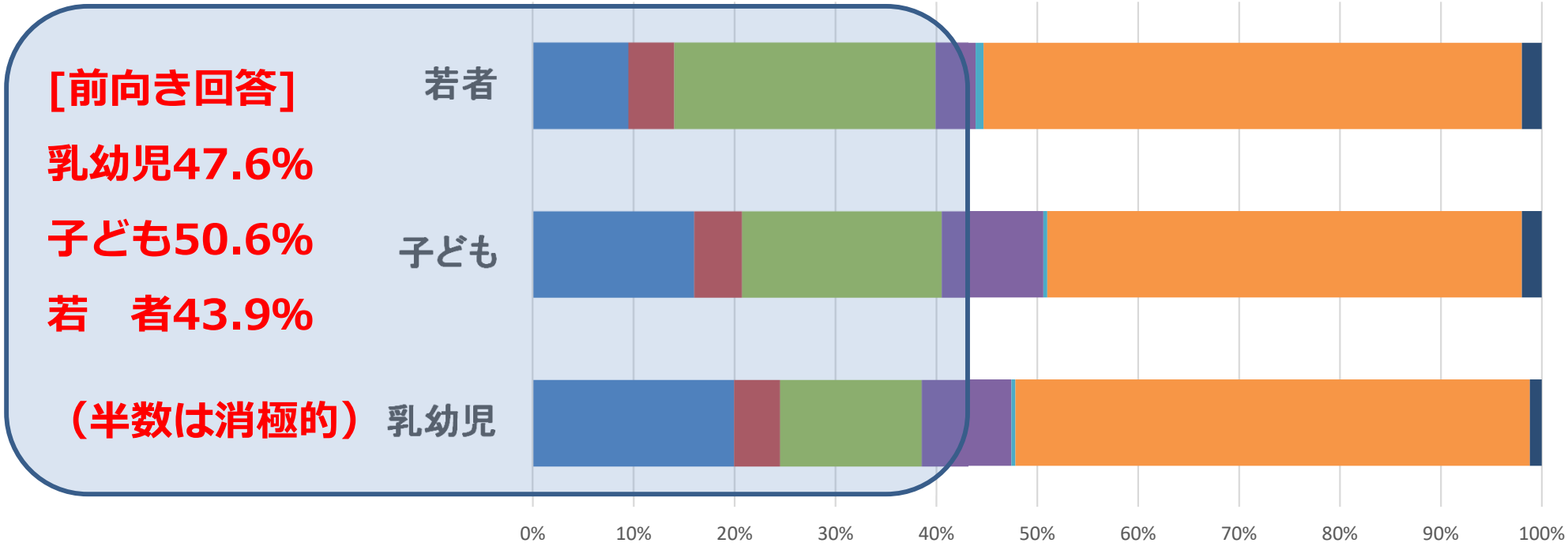


今後の見通し

－今後の青少幼年教化事業の予定（1）－

東本願寺 真宗大谷派 shinshU Otani-ha

青少幼年教化事業の今後の予定



	乳幼児	子ども	若者
現在行っている教化事業に今後も継続して取り組む	20.0%	16.0%	9.5%
現在行っている教化事業に加えて、新たな事業に取り組みたい	4.5%	4.7%	4.5%
現在は行っていないが、今後新たに教化事業に取り組みたい	14.0%	19.8%	25.9%
現在は行っていないが、過去に取り組んでいた教化事業を再開したい	8.9%	10.1%	4.0%
現在の教化事業を休止したい	0.4%	0.4%	0.8%
当該世代を対象とした教化事業は考えていない	51.0%	47.0%	53.4%
無回答	1.2%	2.0%	2.0%

若者教化に可能性！！

－今後の青少幼年教化事業の予定（2）－

東本願寺 真宗大谷派 shinshU Otani-ha Higashihongan-ji

さらに、地域状況別の比較

①「現在は行っていないが、今後新たに教化事業に取り組みたい」

	乳幼児	子ども	若者
政令指定都市	22.5%	35.0%	37.5%
過疎	10.2%	16.6%	20.9%
その他	16.5%	20.3%	29.0%
全体	14.0%	19.8%	25.9%

若者教化に
可能性あり！

②「当該世代を対象とした教化事業は考えていない」

	乳幼児	子ども	若者
政令指定都市	52.5%	42.5%	45.0%
過疎	56.2%	52.8%	58.3%
その他	45.5%	42.0%	49.8%
全体	51.0%	47.0%	53.4%

過疎地での青少幼年教化の難しさもある一方、若者教化に可能性

－今後の青少幼年教化事業の予定（３）－

東本願寺 真宗大谷派 shinshU Otani-ha Higashihongan-ji

《乳幼児対象の今後取り組みたい取り組み内容》【複数回答可】

	数	順位
初参り式（「式」に限らず、寺院に初参りに来られる場合も含む）	62	1
花まつり	56	2
子ども会（開催回数は問いません。日曜学校などの名称のものも含む）	49	3
子ども報恩講	28	4
除夜の鐘への乳幼児の参加奨励	28	4
お勤めの練習会	18	6
報恩講への乳幼児のお参り奨励	18	6
寺院を会場とした乳幼児を対象とした塾や習い事	16	8
寺院・境内を会場としたラジオ体操	14	9
乳幼児を意識した掲示伝道	13	10
親鸞聖人誕生会	11	11
乳幼児親子を対象とした幼児広場（幼児が集える場）や育児サロン	11	11
地域の仏教会主催の行事（花まつりなど）への参加	10	13
子ども食堂	10	13
幼稚園や保育園、認定子ども園等の運営	8	15
毎日の鐘つきへの乳幼児の参加奨励（夏休みのみの場合なども含む）	8	15
老人会・婦人会など地域の組織と合同しての乳幼児を対象とした取り組み	8	15
乳幼児を対象とした帰敬式	7	18
寺報における乳幼児を意識した文書伝道	7	18
乳幼児を意識したインターネットを活用した情報発信	6	20
その他		

これまで呼び掛けてきたものが上位

－今後の青少幼年教化事業の予定（４）－

東本願寺 真宗大谷派 shinshU Otani-ha Higashihongan-ji

《子ども対象の今後取り組みたい取り組み内容》【複数回答可】

	数	順位
子ども会（開催回数は問いません。日曜学校などの名称のものも含む）	77	1
花まつり	64	2
除夜の鐘への子どもの参加奨励	45	3
子ども報恩講	36	4
お勤めの練習会	34	5
子どもを意識した掲示伝道	29	6
寺院を会場とした子どもを対象とした塾や習い事	27	7
報恩講への子どものお参り奨励	23	8
子どもを対象とした帰敬式	17	9
寺院・境内を会場としたラジオ体操	14	10
子ども食堂	13	11
寺院を会場としたフリースクール	13	11
地域の仏教会主催の行事（花まつりなど）への参加	12	13
子どもを意識したインターネットを活用した情報発信	12	13
寺報における子どもを意識した文書伝道	11	15
毎日の鐘つきへの子どもの参加奨励（夏休みのみの場合なども含む）	10	16
親鸞聖人誕生会	9	17
老人会・婦人会など地域の組織と合同しての子どもを対象とした取り組み	9	17
寺院を会場とした学童保育	5	19
ボーイスカウト・ガールスカウト活動	1	20
その他		

これまで呼び掛けてきたものが上位

－今後の青少幼年教化事業の予定（５）－

東本願寺 真宗大谷派 shinshU Otani-ha Higashihongan-ji

《若者対象の今後取り組みたい取り組み内容》【複数回答可】

	数	順位
門徒の仏前結婚式	65	1
報恩講への若者のお参り奨励	50	2
除夜の鐘への若者の参加奨励	48	3
お勤めの練習会	43	4
青年会	42	5
若者を意識した掲示伝道	42	5
若者を対象とした帰敬式	30	7
若者を意識したインターネットを活用した情報発信	30	7
花まつり	29	9
寺院を会場とした若者を対象とした塾や習い事	25	10
成人式（「式」に限らず、寺院にお参りに来られる場合も含む）	17	11
寺報における若者を意識した文書伝道	17	11
地域の仏教会主催の行事（花まつりなど）への参加	10	13
老人会・婦人会など地域の組織と合同しての若者を対象とした取り組み	9	14
毎日の鐘つきへの若者の参加奨励（夏休みのみの場合なども含む）	7	15
親鸞聖人誕生会	6	16
ボーイスカウト・ガールスカウト活動	2	17
その他		

若者教化の内容は バラエティに富む

―青少幼年教化の開始・継続・再開のための必要なサポート―

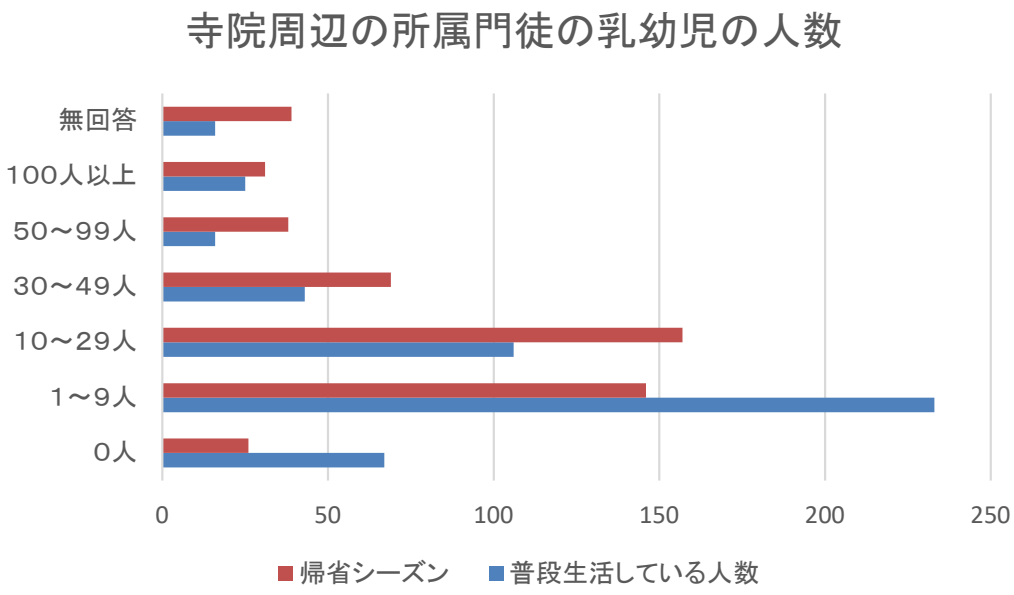
東本願寺 真宗大谷派 shinshU Otani-ha Higashihongan-ji

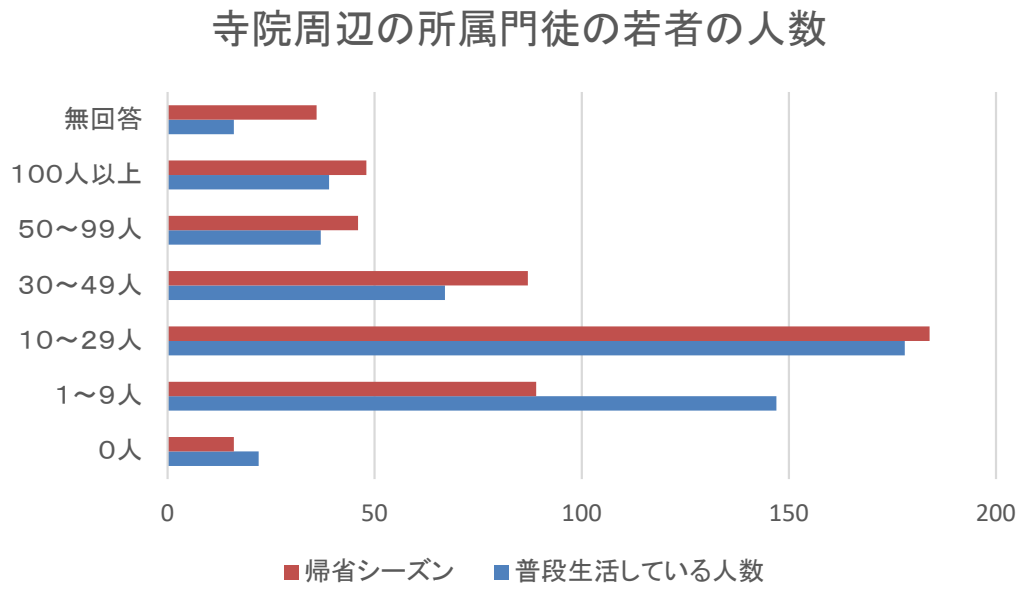
・事例が知りたい（寺院・組・ブロック単位など）
・関係学校の学生による支援や児童教化サークルの巡回
・教材の周知
・寺院単位の助成
・青少幼年の減少が見えている中での共同教化支援体制（組単位や複数ヵ寺での取り組みサポートなど）
・サポートして欲しいと思えるスタッフの顔が見える組織づくりと発展するまで地域に密着し寄り添うサポート
・何が支援になるのか、一ヵ寺一カ寺違うのだということを共有することからはじまる
・積極的にお寺に孫を連れて来るおじいちゃんおばあちゃんを育成するべき
・インターネット活用へのサポート体制
・コロナでそもそも青少幼年に出あう機会が極端に減少した中で、どういう取り組みができるのか？サポートしてもらえるのか？

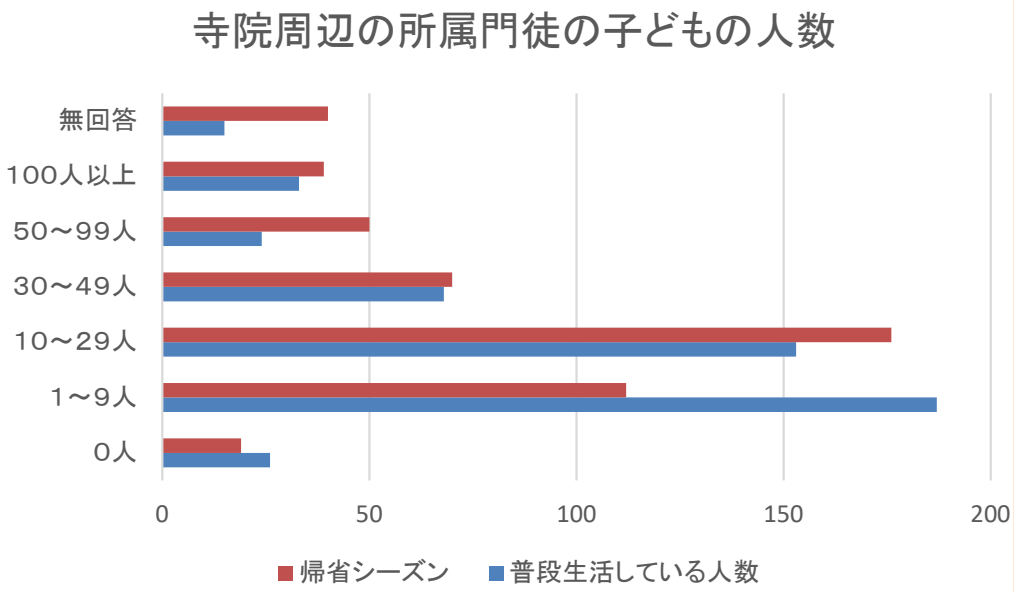
・少子化の中での共同教化への期待
・一ヵ寺一カ寺の状況に応じたサポート

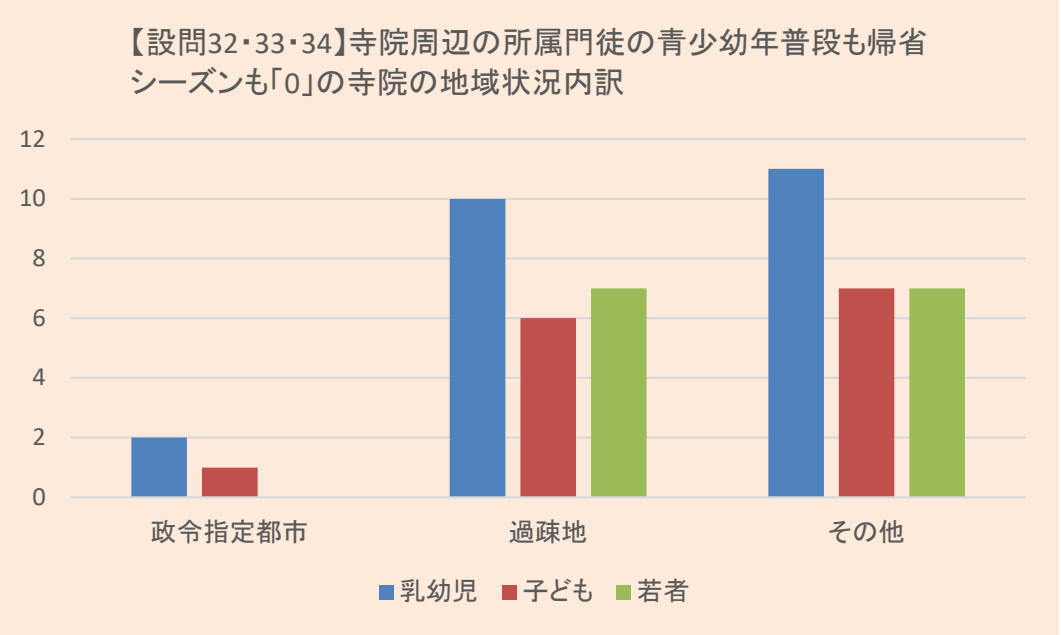
寺院を取り巻く状況

寺院を取り巻く状況① －所属門徒の青少幼年の寺院周辺の数－



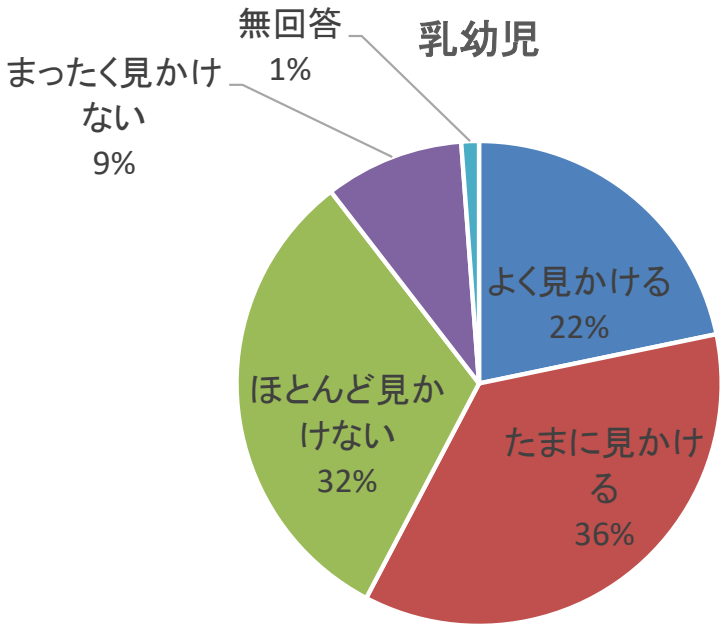


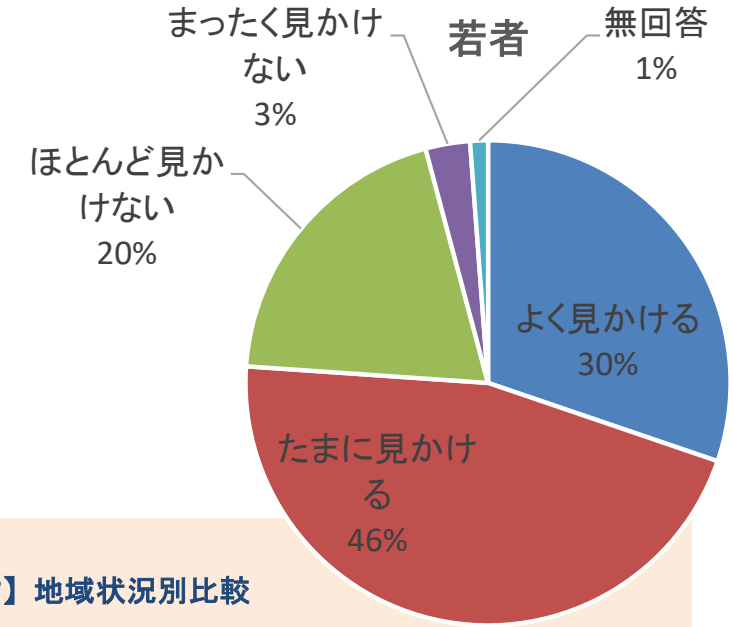


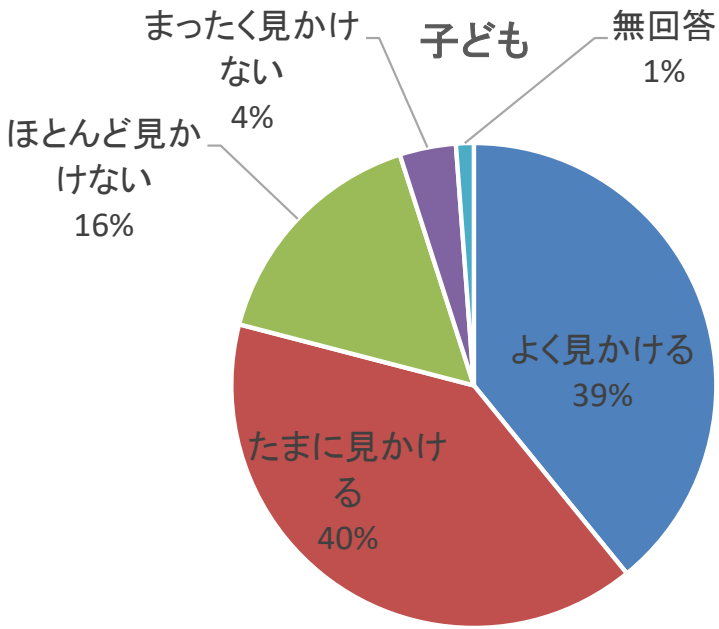


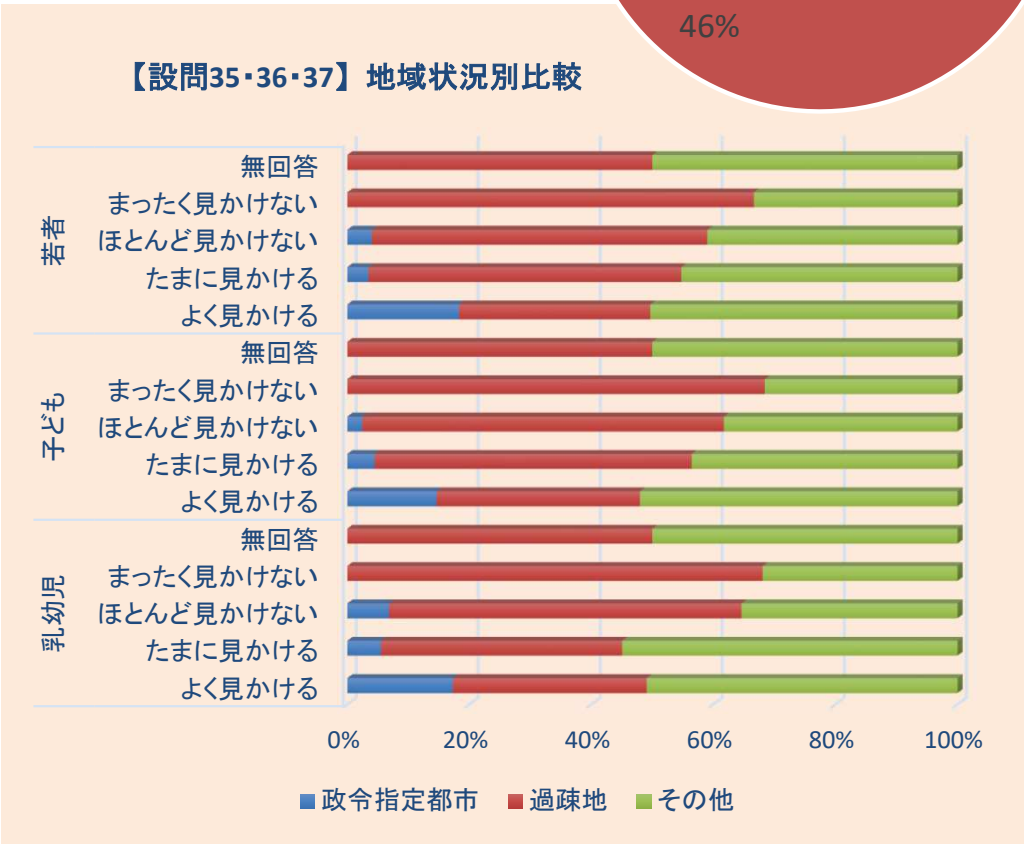
寺院を取り巻く状況② －寺院所在寺院で日常的に見かける青少幼年の状況－

寺院所在地域で青少幼年を日常的に見かける頻度









寺院を取り巻く状況③ －門徒や地域の方から求められるお寺の青少幼年教化（１）

・住職による臨機応変なる態度と法話が必要であり、本堂から出て社会参加していくことが大事。本尊を持ち歩いて会場を移転しながら教化するくらいに、待つことは変わっていくでしょう。
・日曜学校の様に寺院でしか出来ないことを求めていると感じる。
・僧侶が行う取り組みや教化、活動はニーズに合っていないことが多い。
・子ども会の開催はよく話題になる。
・核家族化で家庭内の仏事継承が少なくなったので、月忌参りや法事の席などで子どもたちと共に仏事への参加を求める必要。（呼びかけをはじめてからは、少しずつ同席する家族が見受けられる）
・墓前参りを通じて若い人が亡き人を偲び、感謝する心を育む場所として寺の役割りが求められている。
・家の仏様の担い手を育て、仏教の作法を教えて欲しい。
・お寺に行くことを通して、しつけや行儀を身につける場であると認識されている。
・お寺を開放して子どもの居場所を作って欲しいと思われている

寺院を取り巻く状況④ －門徒や地域の方から求められるお寺の青少幼年教化（2）

・敷居を低くすること、日常のちょっとした子育ても含めた相談にのってもらえること。
・子ども食堂をお寺で開いて欲しい
・地域のよりどころ
・仏教青年団を復活させて欲しいという声
・今、共働きの保護者が多く学校が終わった後は学童に行く子どもが多い。お寺がその役割を担うことができれば子どもたちがお寺に親しむご縁になるかもしれない。
・若者には「きちんと墓参りして先祖供養」することを受け継いでくれることを願っておられる方がほとんど
・お寺とは、“住職の物（家業）”と思われているので「お寺」とは“ご門徒の物”という意識改革から
・「お寺を求めている」という感じがない。（寺に対する固定概念が強い）

寺院を取り巻く状況⑤ －「幼年教化」の情報や困りごと－

東本願寺 真宗大谷派 shinshU Otani-ha Higashihongan-ji

・乳幼児が対象となるということは、その親（もしくは近親者）が対象となるということ。親世代が「また来たいな」と思ってもらえる場（育児サロン・子ども食堂など）を作り上げていければ

・乳幼児を連れてくるには、まずその親に興味をもってもらい、理解を得なければ

・子ども会もほそぼそと続けていますが、そろそろ限界

・どんどんと子どもがいなくなっているため、取り組みをどこまで維持していけるのかが不安で困っている

・親世代の寺院や宗教に対する意識や認識が低く、お寺参詣や行事の参加を促すように説明してもほとんどピンとこない

・一人からの子ども会も勇気がいる

・母親、父親世代の寺離れ（敷居が高い、年寄になってから行くところだという思い込み）

・一ヵ寺では人がいない、組レベル程度の取り組みへの支援、真宗保育など一流の専門家の派遣補助支援

幼年教化と若者教化の連動の模索！

寺院を取り巻く状況⑥ －九州教区の青少幼年部門に望むこと－

・SNSによる寺同士の情報の連携
・サポート体制の充実
・（広域教区なので）集まるのではなく、一ヵ寺一カ寺でできることを実施したらよい。
・どんなお寺でも気軽にできる、地味で地道な取り組みを広めて欲しい。一部のスーパー住職やスーパー坊守を育成するのではなく、全体のボトムアップを考えて欲しい。
・門徒数が減少し、加えて青少年・乳幼児童も激変したので、以前実施した日曜学校や子ども会の復活はできない。今後は寺院の年中行事や在家の仏事の中で、子どもたちの参加を検討したい
・教区もしくは組は、とにかく「人」の養成です。
・大谷保育協会との連携。
・（子どもが）大勢いる中で子どもが来ない問題と、本当に子どもがいない地域の問題を一緒に考えないで欲しい

寺院を取り巻く状況⑦ －その他自由回答－

・青少幼年教化への意識が高まった
・大切さはわかっていても、「難しい」と決めつけて一歩が踏み出せない
・お寺だけでなく、地域と合同の形で子どもたちと関わっていけたら
・青年層へのアプローチを考えないといけない
・青少幼年教化は親の協力が必要。その親とのつながりをつかむことができないことが、教化をはじめられない一つの要因
・そこに住み続ける門徒を前提にした教団運営、寺院運営、教化活動は成り立たない
・青少幼年教化活動は、過疎地域ではなかなか難しいが、法務で出あう子どもたちとの関わりを大切にしなければならないと再確認した。
・地域の青少幼年の対象者は、年々減少傾向にあり仏事やお盆、お正月のお墓参り等特別な時にしか出あえなくなっていることを実感。人口減少は食い止められないが、里帰りしたら立ち寄りたくなるような田舎のお寺として存続していく手当を考えたい
・熱意のある人は自ら動くし、熱意のない人に思いを持っていただくためにも情報の共有が大切
・行事だけではパフォーマンスで終わってしまう。日頃のお参り等で、まずは身近な存在に感じてもらいたい。
・過疎地の課題も多数

まとめ

・青少幼年教化を続けている寺院へのアプローチと、そもそも「子どもや若者がいない」という状況であきらめておられる寺院へのアプローチ（例えば、仏事の場での一工夫）と2つのアプローチを考える必要がある

・それぞれの寺院の状況に応じた具体的な例を提示していく（「移動社会」という現状を踏まえた教化のあり方、共同教化の活用、教材は使い方まで示していく…etc）

・若者教化がキーポイント
（幼年教化との連動性、法務の場での出あいの頻度）

「取り組めない理由」の上位の状況にどうアプローチするか？

・「参加してくれる青少幼年がいない」のであれば、

⇒　**少ない人数での青少幼年教化の可能性を伝える**

・「法務が忙しい」のであれば、

⇒**法務そのものが青少幼年教化の場となるような**

“ひと工夫”の可能性を伝える

・「担い手がいない」のであれば、

⇒**協力できる体制づくりや**

「これなら私でもできそう！」と感じてもらえる事例を提示する